交野市埋蔵文化財調査報告 2014-Ⅱ

平成 26 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

2015. 3

交野市教育委員会

例　言

1　本書は、交野市教育委員会が平成26年度国庫補助事業（事業総額11,302,000円　国庫補助率50%　市負担率50%）として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。
2　調査次数番号は、遺跡ごとに確認調査・立会・本発掘調査を一括し、その実施順に調査次数番号をつけ、遺跡名・年度・次数の順番に示す（森遺跡2014－1次調査など)。
3　発掘調査及び本書の執筆・編集は、交野市教育委員会社会教育課文化財係　吉田知史が行い、執筆・図面作成等を李聖子と坂本俊が担当した。
4　調査区・遺構平面図の方位は、国土座標を用いたものを除いて磁北を示す。
5　使用した標高は、東京湾平均海水（T.P.）からのプラス値である。
6　本書の土層断面図の土色注記は、『新版標準土色帖』2010年版に基づいて示す。
7　本書の北代遺跡、交野山石切場跡については、新規登録予定の遺跡であるため、仮称として記載する。

目　次

例言

第1章 交野市の埋蔵文化財包蔵地と調査状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1．位置と自然的・歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　2．調査の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　　（1）文化財保護法にもとづく届出・通知と確認調査
　　（2）対処状況

第2章 平成26年度実施の試掘・確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1．試掘調査と確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　2．神宮寺遺跡2014－1次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　3．上の山遺跡2014－1次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　4．馬場遺跡2014－1次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　5．遺跡範囲外試掘（倉治9丁目）2014－1次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　6．遺跡範囲外試掘（倉治8丁目）2014－2次調査・北代遺跡2014－1次調査・・・9
　7．森遺跡2014－1次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　8．岩倉開元寺跡・交野山石切場跡2014－1次分布調査・・・・・・・・・・・・・・21

図目次

図１　交野市の位置・遺跡分布図
図２　布懸遺跡 2014－１次・私部城跡 2014－１次・外殿垣遺跡 2014－１次調査 位置図
図３　神宮寺遺跡 2014－１次調査 位置図
図４　上の山遺跡 2014－１次・馬場遺跡 2014－１次・遺跡範囲外（倉治９丁目）2014－１次調査位置図
図５　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次・北代遺跡 2014－１次調査 位置図
図６　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次・北代遺跡 2014－１次調査 土層断面図
図７　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次・北代遺跡 2014－１次調査 土層断面図
図８　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次・北代遺跡 2014－１次調査 土層断面図
図９　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次調査・北代遺跡 2014－１次調査 平面図
図 10 北代遺跡 2014－１次調査 ７トレンチ平面図、建物１・２ 平面図・断面図
図 11 森遺跡 2014－１次調査 位置図・トレンチ位置図
図 12 森遺跡 2014－１次調査 土層断面図
図 13 森遺跡 2014－１次調査 平面図
図 14 出土遺物
図 15 交野山分布調査対象範囲（岩倉開元寺跡・交野山石切場跡・石仏の道）
図 16 岩倉開元寺跡分布調査採集遺物
図 17 交野山石切場跡遺構全体図
図 18 矢穴模式図
図 19 矢穴法量（矢穴口長辺－深さ）の分布図

表目次

表１　平成 26 年度の届出・通知の件数及び内訳
表２　平成 26 年度の試掘・確認調査一覧
表３　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次・北代遺跡 2014－１次　遺構・遺物一覧
表４　森遺跡主要調査地一覧
表５　矢穴寸法一覧
表６　遺物観察表

図版目次

図版１　神宮寺遺跡（2014－１次調査）
１．１トレンチ 全景（南から）
２．１トレンチ 北壁断面
３．１トレンチ 溝１（西から）
４．１トレンチ 溝１断面（南から）
５．１トレンチ 落ち込み２（西から）
６．１トレンチ 落ち込み２部分（西から）
７．２トレンチ 全景（南から）
８．２トレンチ 北壁断面

図版２　遺跡範囲外（倉治８丁目 2014－２次調査）・北代遺跡（2014－１次調査）
１．調査対象地から交野山を望む
２．１トレンチ 足跡面
３．１トレンチ 北壁断面
４．２トレンチ 全景（北から）
５．３トレンチ 全景（南から）
６．３トレンチ 東壁断面
７．４トレンチ 全景（西から）
８．４トレンチ 全景（北から）

図版３　遺跡範囲外（倉治８丁目 2014－２次調査）・北代遺跡（2014－１次調査）
１．５トレンチ 全景（南から）
２．５トレンチ 東壁断面
３．６トレンチ 全景（南から）
４．６トレンチ 北壁断面
５．７トレンチから北方６・５トレンチを望む
６．７トレンチ 第１遺構面全景（南から）
７．７トレンチ 第２遺構面（南から）
８．７トレンチ 柱穴３断面

図版４　遺跡範囲外（倉治８丁目 2014－２次調査）・北代遺跡（2014－１次調査）
１．８トレンチ 全景（南から）
２．８トレンチ 南壁断面・東壁断面
３．９トレンチ 全景（南から）
４．10 トレンチ 全景（南から）
５．10 トレンチ 溝・土坑（南から）
６．11 トレンチ 西壁断面
７．12 トレンチ 全景
８．12 トレンチ 東壁断面

図版５　森遺跡(2014－１次調査)
１．１トレンチ 第１面全景（東から）
２．１トレンチ 第２面全景（北から）
３．２トレンチ 西壁断面
４．２トレンチ 第１面全景（北から）
５．３トレンチ 西壁断面
６．３トレンチ 北半部第３面（西から）
７．３トレンチ 第３面全景（北から）
８．３トレンチ 第３面全景（南から）

図版６　岩倉開元寺跡分布調査（2014－１次調査）
１．第１地点（西から）
２．第２地点（東から）
３．第３地点（西から）
４．第３地点 南斜面
５．第３地点 東斜面
６．第３地点 石積み
７．石材（矢穴痕）
８．作業風景（石材実測）

図版７　交野山石切場跡分布調査(2014－１次調査)
１．全景（南西から）
２．全景（西から）
３．石材運搬路（西から）
４．石材運搬路（東から）
５．作業風景（採石土坑確認作業）
６．採石土坑(北から)
７．採石土坑(南から)
８．石材２(北から)

図版８　交野山石切場跡分布調査（2014－１次調査）
１．石材３（西から）
２．石材４（東から）
３．石材５（西から）
４．石材６
５．石材７
６．石材７（矢穴痕）
７．石材８
８．石材９

図版９　神宮寺遺跡・馬場遺跡・森遺跡・遺跡範囲外〔倉治８丁目〕・北代遺跡・岩倉開元跡出土遺物

第１章　交野市の埋蔵文化財包蔵地と調査状況

１．位置と自然的・歴史的環境（図１）

交野市は大阪府の東北部に位置し、南東は生駒山地を境にして奈良県生駒市、西は寝屋川市、南は四條畷市、北は枚方市に接している。市域の東南部は花崗岩類で構成された山地で占められ、交野山（標高 344m）をはじめとして旗振山、竜王山、妙見山などが並び、山腹斜面に急渓流が分布する。山麓には洪積層と沖積層で形成された平野部が広がり、寝屋川水系に合流する傍示川を除くと、交野山から平野部へ流れる河川は淀川水系の天野川へ集約される。

周知の文化財は 67 箇所を数える。その中で、旧石器・縄文時代の神宮寺遺跡をはじめとして、弥生時代から中世・近世にかけて営まれた森遺跡・寺村遺跡・有池遺跡・上私部遺跡などの集落遺跡や、古墳時代前期に属する森古墳群、中期の交野車塚古墳群や後期の寺古墳群・倉治古墳群などが分布する。また、中近世には東高野街道が市域を南北に走り、岩倉開元寺跡・八葉蓮華寺などの山岳寺院が営まれ、平城である私部城跡が見られる。

なお、奈良時代の集落遺跡・北代遺跡と、中近世の生産遺跡・交野山石切場跡の２件については、周知の埋蔵文化財包蔵地として新規登録する予定である。

２．調査の状況（表１）

(1) 文化財保護法にもとづく届出・通知と確認調査

平成 26 年４月１日から平成 27 年２月 28 日までに受理した文化財保護法第 93 条の届出の件数は 116 件、94 条の通知の件数は５件で、総件数は 121 件となる。表１に遺跡ごとの工事目的と処置の内訳を示した。

(2) 対処状況

文化財保護法にもとづく届出・通知について、大阪府における開発事業等に伴う埋蔵文化財の取扱い基準に従い、表１に記したとおりに慎重工事・立会調査・発掘調査に処置した。試掘・確認調査を実施したものに関して、調査内容を第２章に記述した。

第２章 平成 26 年度実施の試掘・確認調査

１．試掘調査と確認調査（表２）

今年度補助事業に係る試掘・確認調査の対象となった遺跡は、神宮寺遺跡・上の山遺跡・布懸遺跡・私部城跡・外殿垣内遺跡・馬場遺跡・森遺跡・遺跡範囲外（倉治９丁目・８丁目）で、他に分布調査を岩倉開元寺跡を中心とした交野山で実施した。

なお、遺跡範囲外（倉治８丁目）の試掘調査では、調査対象地の南側に設定した２箇所のトレンチで、奈良時代の掘立柱建物・柵列などを検出しており、集落が立地する東西約 200m×南北約 60m の微高地を新たな遺跡範囲として北代遺跡と名付けた。一方、交野山の分布調査では、西北尾根（頂部標高 188.5m）とその北側斜面で石材群・運搬ルート・採石土坑などを確認しており、これらの分布と谷地形の状況から、山腹斜面の径約 150m の範囲を交野山石切場跡とした。これら２件を埋蔵文化財包蔵地として新規登録する予定である（図 15）。

図１　交野市の位置・遺跡分布図

表１　平成26年度の届出・通知の件数及び内訳

文化財一覧番号	遺跡名	件数		工事目的の内訳															処置の内訳		
		93条	94条	宅地造成	個人住宅	分譲住宅	共同住宅	兼用住宅	その他住宅	その他建物	ガス	電気	道路	下水道	学校	電話通信	工場	その他開発	慎重工事	立会調査	発掘調査
1	郡津浪り遺跡	1															1		1		
2	ハセデ遺跡	2			1		1												2		
6	交野郡衙跡	35		3	10	16	1			1	3	1							31	4	
8	私部城跡	3	2		2						1			2					2	2	1
9	私部城遺跡		1											1						1	
8・9	私部城跡・私部城遺跡	3			2		1													3	
14	倉治遺跡		1												1					1	
15	東倉治遺跡	2									1					1			2		
17	倉治古墳群	2										2							2		
18	神宮寺遺跡	9			1	5						3							8		1
29・30	寺村遺跡・交野東線古墳群	1										1							1		
36	私部南遺跡	24		1	6	10			1		2	4							24		
37	森遺跡	5			2	1				1	1								4		1
38	天田神社遺跡	8			1	7													8		
40	馬場遺跡	2		1							1								1		1
49	布懸遺跡	2		1		1													1		1
51	外殿垣内遺跡	3		1		1					1								2		1
52	門ノ木遺跡	1																1		1	
53	坊領遺跡	7	1	1	1	1		1			2			1				1	8		
53・55	坊領遺跡・そのむら遺跡	1					1												1		
56	星の森遺跡	1			1														1		
65	上の田遺跡	4			2	1						1							3		1
合計		116	5	8	29	43	4	1	1	2	12	12		3	1	1	1	2	102	12	7

表２　平成 26 年度の試掘・確認調査一覧

No.	遺跡名 調査次数	調査期間	調査地住所	要発掘面積 掘削深度	内容
1	神宮寺遺跡 2014－１次	平成 26 年４月 23 日 ～５月 16 日	神宮寺１丁目 325・326－１	59.6 ㎡ GL－0.9m	トレンチを２箇所設定。中世の落ち込み・溝、近世に形成された耕作に伴う土層等（第２章-２）を検出。
2	上の山遺跡 2014－１次	平成 26 年５月２日 ～６月９日	私部西４丁目 1052－２	10.6 ㎡ GL－0.5m	トレンチを２箇所設定。時期不明の溝を検出（第２章-３）。
3	遺跡範囲外 2014－１次	平成 26 年６月 16 日	倉治９丁目 2676-４他	3.0 ㎡ GL－1.1m	トレンチを１箇所設定。現地表面（T.P.+27.5m）下 0.4m まで耕作土、0.4m～0.8m までシルト層、0.8m 以下（T.P.+26.3m）まで粗砂層を確認。
4	布懸遺跡 2014－１次	平成 26 年７月 24 日	星田４丁目 3347 番地１	1.08 ㎡ GL－0.7m	トレンチを１箇所設定。現地表面（T.P.－51.5m）下 0.5m まで盛土、0.5m～0.7m で旧表土を確認。遺物は出土していない（図２）。
5	私部城跡 2014－１次	平成 26 年８月 21 日	私部６丁目 1710 番地１	3.6 ㎡ GL－0.2m	トレンチを１箇所設定。現地表面（T.P.+25. 2m）下 0.2m まで掘削。現代整地土を確認したにとどまる。整地土から土師器片、近世の瓦片が出土（図２）。
6	遺跡範囲外 2014－２次・北代遺跡 2014－１次	平成 26 年９月 22 日 ～11 月 20 日	倉治８丁目	348 ㎡ GL-1.0~3.0m	トレンチを 12 箇所設定。奈良時代の掘立柱建物、中世の溝、自然流路などを検出（第２章-６）。
7	外殿垣内遺跡 2014－１次	平成 26 年 11 月４日	藤が尾５丁目 142 他	5.3 ㎡ GL－1.0m	トレンチを２箇所設定。近世頃の耕作に伴う土層を確認（図２）。
8	馬場遺跡 2014－１次	平成 26 年 12 月８日 ～12 月 10 日	私市６丁目 432	5.2 ㎡ GL－1.0m	トレンチを１箇所設定。土坑１基を検出（第２章-４）。
9	森遺跡 2014－１次	平成 26 年 12 月 17 日 ～平成 27 年１月５日	森北１丁目 44・55 番	31 ㎡ GL－1.2m	トレンチを３箇所設定。中世の土坑、畦畔を検出（第２章-７）。
10	岩倉開元寺跡・交野山石切場跡 2014－１次	平成 26 年 11 月 27 日 ～平成 27 年２月５日	倉治地区	55,000 ㎡	交野山を中心とした岩倉開元寺跡、交野山石切場跡の分布調査（第２章-８）。

2．神宮寺遺跡 2014－１次調査（図３・図版１）

(1) 調査地の概要

神宮寺遺跡は、交野山西麓の扇状地に立地した集落跡・遺物散布地で、これまでに旧石器・縄文時代早期、弥生時代から奈良時代、中世の遺構が検出され遺物が出土している。北に安養寺跡、西に有池遺跡と上私部遺跡が隣接して分布する。調査地は遺跡範囲の北端部に位置し、北西に向かう緩やかな傾斜地に立地する。現況は水田で、標高は T.P.+51.6m である。調査地の北半部にトレンチを南北方向に２箇所設定した。

(2) 調査結果

層序　１トレンチは現地表面下約 0.5m までが旧耕作土層である。旧耕作土層除去後、現地表面下約 0.5m で近世の落込みを検出した。現地表面下約 0.7m で土砂堆積（灰黄褐色中砂～粗砂）を確認しており、上面で平安時代末から中世の遺物を含む遺構を検出した。２トレンチでは５層までが旧耕作土層である。９層は１・２トレンチに広がる土層であるが、時期は不明である。なお、１トレンチの 19 層・20 層・21 層（明黄褐色中砂～粗砂・にぶい黄褐色粗砂・淺黄色中砂～粗砂）は、２トレンチで確認した 10 層（砂層）に対応する。ボーリング調査の結果、その堆積を T.P.+49.0m まで確認したが、地山は検出していない。

遺構　１トレンチでは近世の耕作に関連した小溝群と、概ね中世に形成されたと考えられる溝・落込み・ピットなどを検出した。２トレンチでは、中世から近世にかけての耕作に伴うと考えられる土層を確認したが、平面的な広がりは見られず、遺構は検出していない。

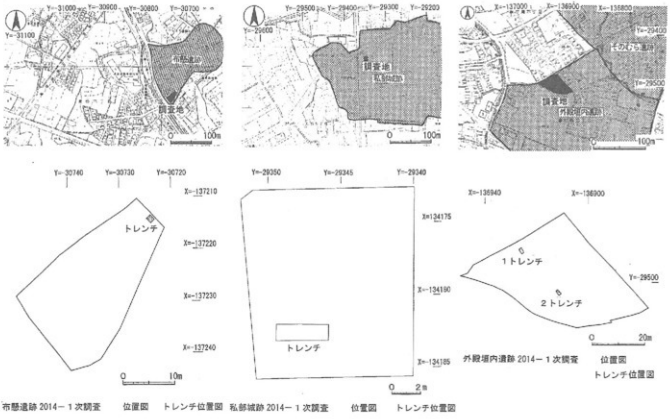
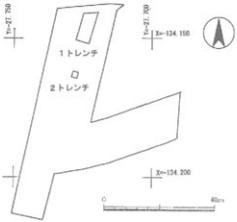
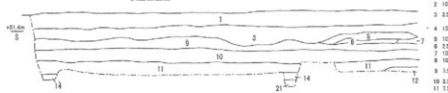


図２　布懸遺跡 2014－１次・私部城跡 2014－１次・外殿垣遺跡 2014－１次調査 位置図

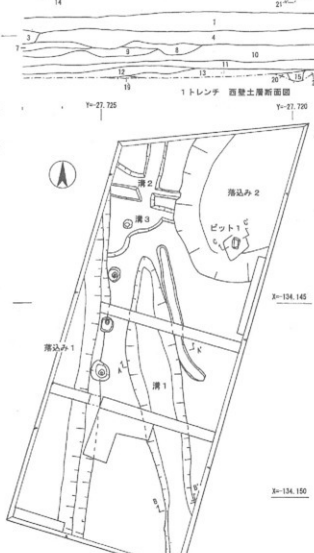
調査位置図





1トレンチ　西壁土層断面図

1 10YR2/1 黒褐色　砂質シルト
2 10YR6/4 にぶい黄橙色　中砂 にぶい黄褐色シルトブロック混じる
3 2.5Y5/2 暗灰黄色　砂質シルト　炭粒3mm大の角礫混じる　硬質
4 10YR5/2 灰黄褐色　砂質シルト　硬質
5 10YR4/6 褐色　砂質シルト　炭粒2mm大の角礫混じる　緑色粘質あり
6 2.5Y7/4 浅黄色　中砂　黄褐色～白色の角礫混じる　砂質シルト　浅黄色平面ブロック混じる
7 10YR3/3 にぶい黄褐色　砂質シルト　粉褐色砂質シルトブロック混じる
8 10YR6/2 灰黄褐色　砂質シルト　黒褐色砂質シルト混じる
9 1.5YR4/8 褐色　砂質シルト　炭粒5mm大の角礫混じる　ねばり強い
10 2.5Y5/2 暗灰黄色　砂質シルト　炭粒5mm大の角礫混じる
11 7.5YR4/4 褐色　砂質シルト　炭粒2～3mm大の角礫混じる
12 2.5Y4/1 黒灰色　砂質シルト　暗赤褐色砂質シルト混じる
13 10YR4/2 灰黄褐色　砂質シルト　炭粒5mm大の角礫混じる
14 10YR2/2 黒褐色　砂質シルト　炭粒3mm大の角礫混じる　ねばり強い
15 10YR4/2 灰黄褐色　砂質シルト　黒褐色砂質シルト混じる
16 10YR4/3 にぶい黄褐色　砂質シルト　黒色砂質シルト等混じる
17 7.5YR5/2 黒褐色　砂質シルト　にぶい黄褐色砂質シルト混じる
18 7.5YR4/2 灰褐色　砂質シルト　暗色砂質シルトブロック混じる
19 10YR3/4 明黄褐色　中～粗砂
20 10YR3/4 にぶい黄褐色　粗砂　灰黄褐 シルトわずかに混じる
21 2.5Y3/4 浅黄色　砂質シルト　中～粗砂



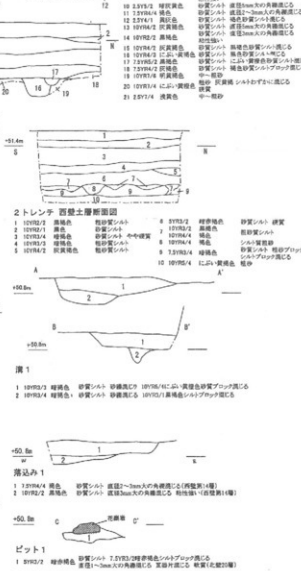
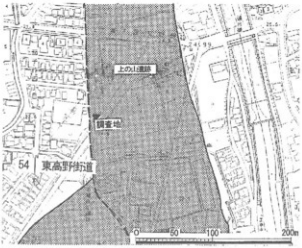
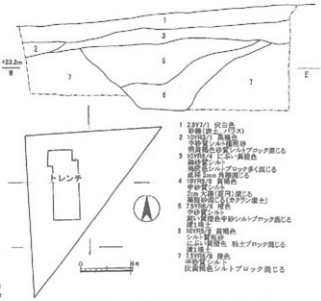
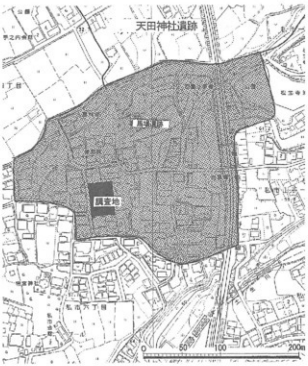


図３　神宮寺遺跡 2014－１次調査 位置図

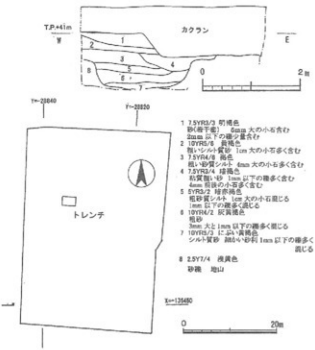


上の山遺跡 2014－１次調査 位置図





馬場遺跡 2014－１次調査 位置図



遺跡範囲外(倉治9丁目)2014－1次調査位置図

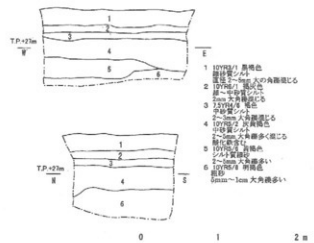


図４　上の山遺跡 2014－１次・馬場遺跡 2014－１次・遺跡範囲外（倉治９丁目）2014－１次調査 位置図

落込み１　１トレンチ西端部で検出した。幅 1.9m 以上、深さ 0.2m 以上、検出長南北約９m を測る。西側に深くなることから（西端で約 1.0m）、南北方向に走る溝か、南北方向に一段低くなる段差の可能性が考えられる。土師器片が出土した。

落込み２　北東隅で検出した。南北 4.0m 以上、東西 2.7m 以上、深さ 0.2～0.3m を測る。瓦器椀・土師器皿が出土した（図 14-１・２・４・５・６・７、図版９-１・６）。

溝１　幅 0.7m～1.3m、深さ 0.3m、検出長約 8.0m を測る。南北方向の溝で、トレンチ北半部で途切れる。瓦器椀底部片が出土した。（図 14-３）

溝２・３　幅 0.4m、深さ 0.1m を測る溝で、落込み２を切る。

３．上の山遺跡 2014－１次調査（図４）

(1) 調査地の概要

上の山遺跡は、天野川左岸に面した段丘を中心に立地した集落遺跡で、旧石器・縄文時代晩期、弥生時代から奈良時代、中・近世の遺構が検出され遺物が出土している。西に枚方市の茄子作遺跡が隣接し、南北に東高野街道が走る。調査地は遺跡範囲の西端に位置し、開析谷斜面にあたる。北に向かって低くなる傾斜地に立地し、標高はトレンチ北端で T.P.+23.5m、南端で T.P.+23.9m を測る。南北方向に１箇所トレンチを設定した。

(2) 調査結果

層序　現地表面下約 0.3m までが近現代の整地土層である。その直下の７層上面で溝を検出した。７層は灰黄褐色シルトブロックが混じる土層で、土師器・須恵器の細片が出土した。

遺構　溝１条を検出した。

溝１　幅 1.2m、深さ 0.4m を測る南北方向の溝。埋土は２層に分かれる。時期は不明であるが、位置的には東高野街道に関連した遺構（側溝）の可能性が考えられる。

４　馬場遺跡 2014－１次調査（図４）

(1) 調査地の概要

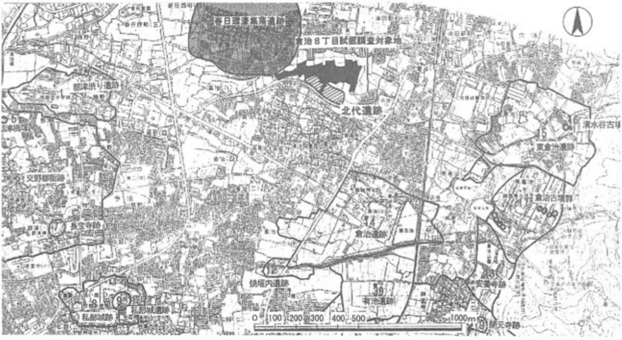
馬場遺跡は土生川の右岸、南東方向へ延びる尾根斜面に立地した遺物散布地で、おもに中世の遺物が出土している。また、埴輪片が出土したことから近辺に古墳が存在した可能性が指摘されている。北に天田神社遺跡が位置する。調査地は遺跡範囲の南西部に位置し、標高は調査地西端で T.P.+42.5m、東端で T.P.+40.6m、トレンチの位置で T.P.+41.3m を測り、緩やかな東傾斜面に位置する。調査地の中央よりに１箇所、東西トレンチを設定した。

(2) 調査結果

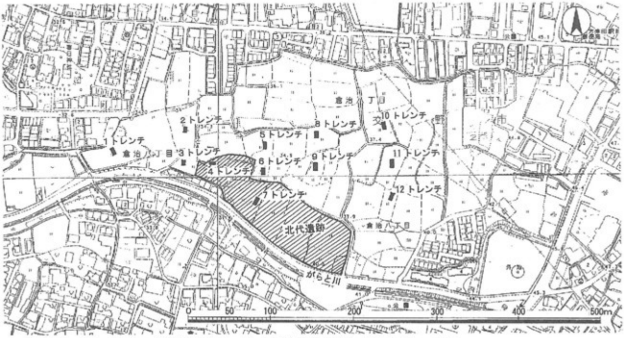
層序　現地表面下約 0.3m～0.6m までが現代盛土である。８層（地山・浅黄色砂礫土層）上面で土坑を検出した。盛土から土師器小皿（図 14-30・31）、円筒埴輪片（図 14、図版９-32）が出土した。

遺構　土坑１基を検出した。

土坑１　トレンチ南端、地山面（T.P.+40.6m）で検出した。現状では不整な半円形を呈し、径 1.3m、深さ 0.45m を測る。南側はトレンチ外で全形は不明。



遺跡位置図



遺跡範囲外試掘 2014－２次・北代遺跡調査位置図 2014－１次調査　トレンチ位置図

図５　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次・北代遺跡 2014－１次調査 位置図

５．遺跡範囲外（倉治９丁目）2014－１次調査（図４）

(1) 調査地の概要

がらと川の右岸に広がる低地部に位置する。現況は水田で、標高はトレンチの地点でT.P.+27.5mである。調査地の北西端にトレンチを１箇所設定した。

(2) 調査結果

層序　現地表面下約0.4mまで耕作土層が続き、その直下約0.4m（T.P.+26.7m）まで礫が混じる褐灰色系のシルト層が堆積し、その下層は粗砂層となる。粗砂層はT.P.+26.3mまで確認した。遺構は検出されなかった。また、遺物は出土していない。

表３　遺跡範囲外（倉治８丁目）・北代遺跡　遺構・遺物一覧

トレンチ番号	現地表面から遺構面までの深さ/下層確認の標高/地山検出面の標高	遺構	遺物
1トレンチ	T.P.+32.44m～.P.+30.6m/ T.P.+29.60m/　—	足跡面３面（中世）	土師器 23、瓦 3、須恵器 7 など
2トレンチ	T.P.+33.74m～T.P.+32.7m/ T.P.+31.97m/T.P.+33.25m	洪水砂（近代）、自然流路	陶磁器 1
3トレンチ	T.P.+33.43m～T.P.+31.95m / T.P.+31.35m/　—	足跡(中世)	土師器 2
4トレンチ	T.P.+34.00m～T.P.+33.05m/ — /T.P.+33.65m	溝２条（中世）、小溝群・掘立柱建物１棟・柵列２条（奈良時代）	土師器 53、瓦 25、須恵器 5、陶磁器 2
5トレンチ	T.P.+34.45m～T.P.+32.80/ — /T.P.+33.35m	自然流路	土師器 30、瓦 4、須恵器 16、陶磁器 2
6トレンチ	T.P.+34.80m～T.P.+33.44/ T.P.+32.60m/T.P.+33.50m	自然流路、込み１	土師器 48 、須恵器 13、陶磁器 5、黒色土器 3
7トレンチ	T.P.+35.50m～T.P.+35.15m/ T.P.+35.15m/T.P.+34.20m	溝１条、小溝 17 条、掘立柱建物２棟	土師器 25、瓦 10 、須恵器 6、陶磁器 2、黒色土器 2
8トレンチ	T.P.+35.32m～T.P.+33.25m/ T.P.+32.10m/T.P.+33.30m	自然流路	土師器 14、瓦 2、須恵器 8
9トレンチ	T.P.+36.20m～T.P.+35.55m/ T.P.+34.20m/　—	小土坑４、小土坑６	土師器 27、瓦 5、須恵器 14
10トレンチ	T.P.+37.94m～T.P.+37.24m/ T.P.+35.55m/　—	溝１	土師器 35、瓦 3、須恵器 29
11トレンチ	T.P.+38.82m～T.P.+37.40m/ T.P.+36.50m/　—	落込み	なし
12トレンチ	T.P.+39.05m～T.P.+38.25m/ T.P.+37.15m/T.P.+38.40m	溝１、落込み２、土坑２	土師器 109、瓦 22、須恵器 8、石器剥片 3

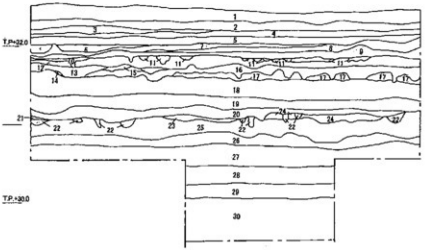
６．遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次調査・北代遺跡 2014－１次調査(図５～10、図版２～４)

(1) 調査地の概要

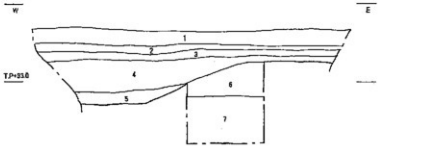
調査地（東西約 450m・南北約 200m の範囲）は、がらと川の右岸にあたる倉治８丁目に位置する。一帯には水田がひろがり、低地部における遺構の確認を目的に、地形の傾斜に直交するようにトレンチを一定の間隔で 12 箇所設定した。調査地の標高は西端の１トレンチが最も低く T.P.+32.44m、東端の 12 トレンチが最も高く T.P.+39.01m を測り、全体的に東から西へと傾斜している。現況では緩やかな傾斜面に水田が並ぶ印象を受けるが、５・６・８トレンチでは T.P.＋32.8m ～T.P.+32.5m で粗砂・砂礫・シルト層が厚く堆積した自然流路を検出しており、低地部は、尾根から舌状に延びる微高地に沿うように入り込んだ谷地形であったことが推定される。ちなみに、この谷地形の西方への延長部が、調査地から約 500m 離れた遺跡範囲外（倉治９丁目）2014-１次調査で確認されている（図４）。

一方、谷地形の南側、尾根筋の微高地に設定した４トレンチでは T.P.+33.60m、７トレンチでは T.P.+35.20m で奈良時代の掘立柱建物や中世の溝などを検出している。７トレンチの北側延長上に位置する５・６トレンチでの地山検出面は T.P.+33.5m を測り、約 1.7m の比高が見られる。４・７トレンチともに、奈良時代には居住域が形成されるが、中世には小溝・溝など耕作に関連した遺構を検出している。このように旧地形を見ていくと、谷地形を臨む微高地は中世以降の水田開発により頂部が削平され、逆に、谷地形は徐々にかさ上げされて、生産域として整地と耕作が繰り返され、現況の緩やかな傾斜の地形に移行したものと推定される。

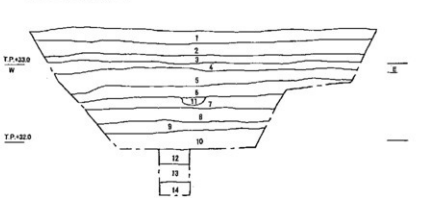
なお、明確な遺構が検出されなかった４・７トレンチ以外の調査結果に関しては表３のとお



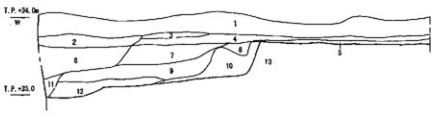
1トレンチ 東壁土層断面図



2トレンチ 北壁土層断面図



3トレンチ 北壁土層断面図



4トレンチ 北壁土層断面図

図6　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次・北代遺跡 2014－１次調査土層断面図

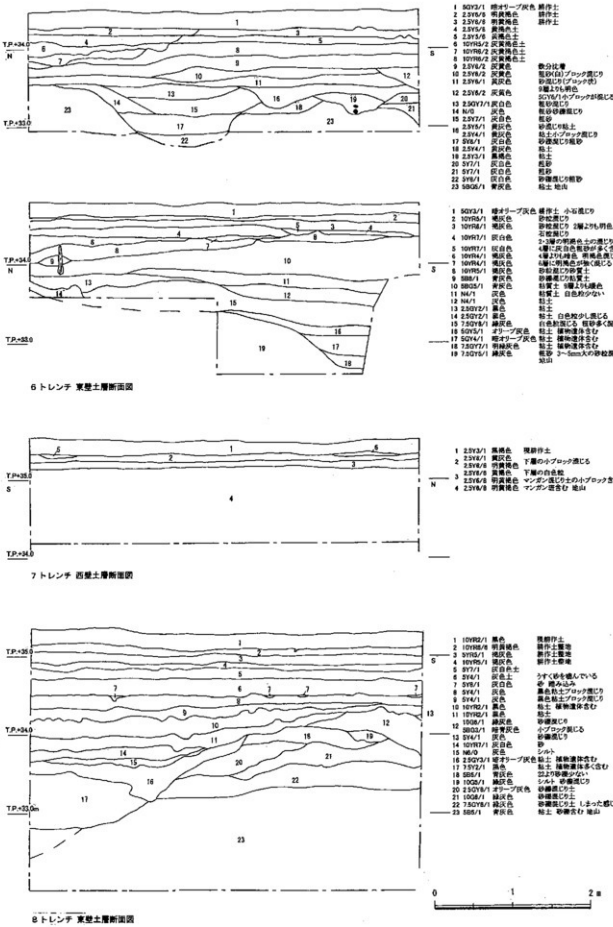
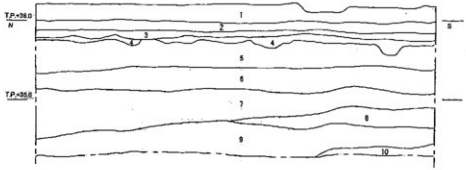
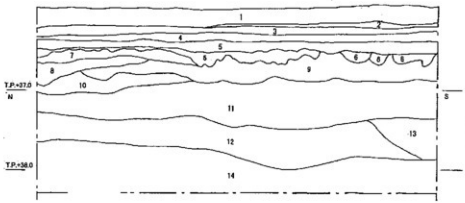


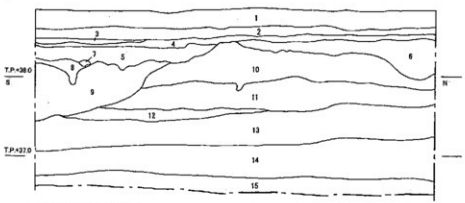
図7 遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次・北代遺跡 2014－１次調査土層断面図



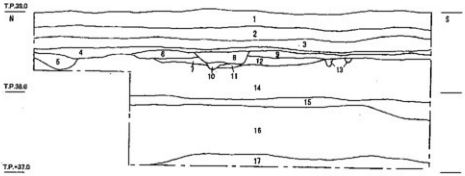
9 トレンチ 東壁土層断面図



10 トレンチ 東壁土層断面図



11 トレンチ 西壁土層断面図



12 トレンチ 東壁土層断面図

0 1 2 m

図８　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次・北代遺跡 2014－１次調査土層断面図

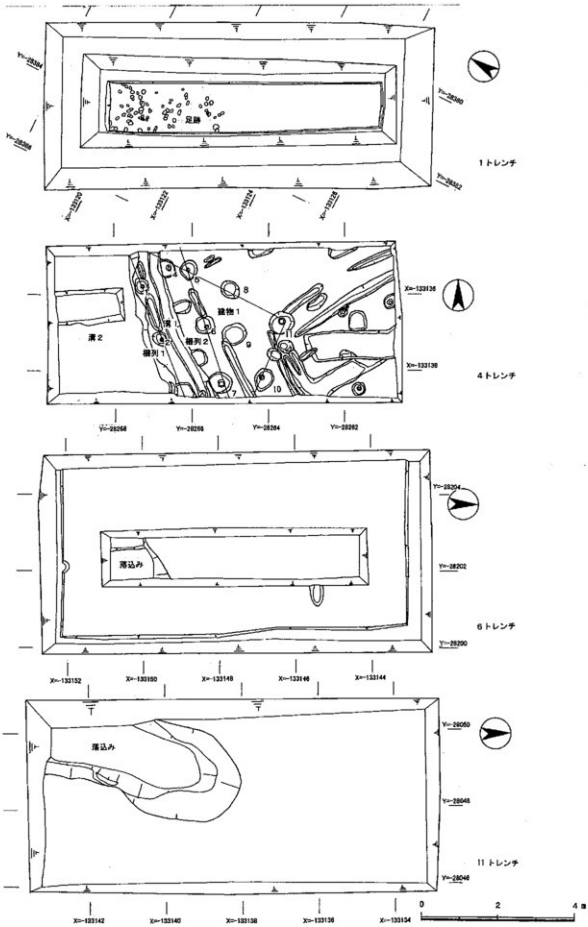


図９　遺跡範囲外（倉治８丁目）2014－２次調査・北代遺跡 2014－１次調査平面図

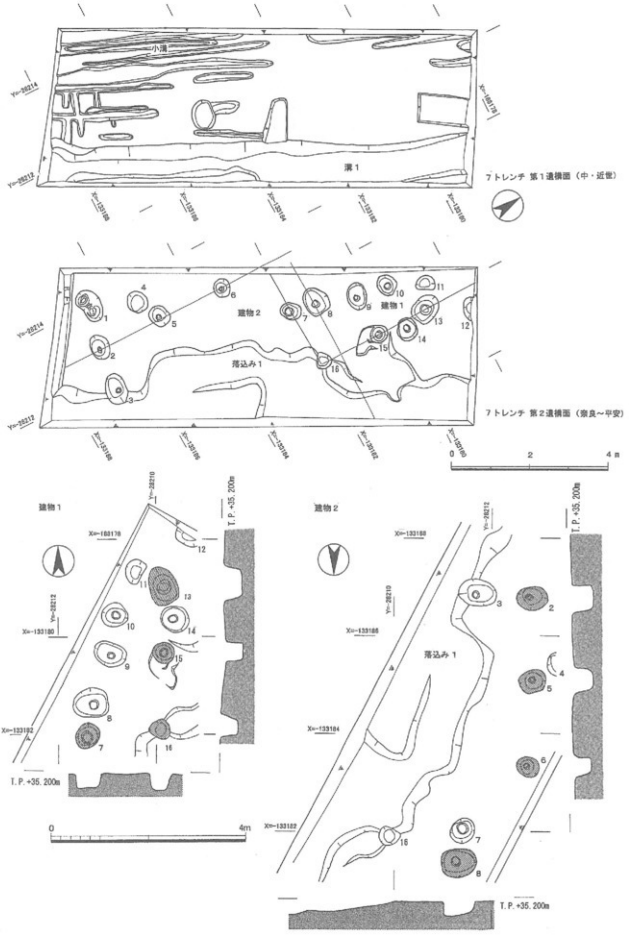


図 10　北代遺跡 2014－1 次調査　7 トレンチ平面図、建物 1・2 平面図・断面図

りである。また、遺物は、11 トレンチを除いて各トレンチで出土しているが、全体的に小片ないし細片にとどまる(図 14-8～29)。低地部の１・５・６・８・12 トレンチでは比較的出土量が多いが、砂・砂礫・粘土の自然堆積層からの出土が多く、尾根筋の微高地に営まれた住居域で使用されていたものが流れ込んだ可能性が高いと考えられる。

(2) 調査結果

４トレンチ（図６・９）

層序　現代耕作土（１層）、近現代に耕作で形成された土層（２層～５層）と洪水砂（６・11 層）を掘削後、T.P.+33.65m で地山層（灰黄色土層）と中世の溝２の埋土を確認し、その上面で近世の耕作に関連した小溝群を検出した。中世の溝、奈良時代の掘立柱建物・柵列はトレンチ中央部の地山層上面で検出した。

遺構

小溝群　幅約 0.2m、深さ約５cm の畝間の溝と推定される。北西－南東方向に５条と北東－南西方向に４条がほぼ直線的に走る。

溝１　幅 0.4m、深さ 0.15m を測る。断面形状は逆台形を呈する。埋土は１層（にぶい橙色土）で瓦器片・土師器片が出土した。

溝２　トレンチの西側で検出。西肩がトレンチ外で、溝幅・方向などは不明。現状では東肩の北側が 2.75m 以上、南側が 4.45m 以上、深さ 0.65cm を測る。最終的には近代の洪水砂層（６・11 層）が堆積する。

掘立柱建物１　南側がトレンチ外、西側が溝１・２に削られ、全体の規模は不明である。梁行・桁行の確定は不可能だが、検出長の長い北側柱筋から求められる主軸はN－62°－Wを示す。北側柱列２間（3.2m）以上×東側柱列１間（1.55m）以上の規模を有し、検出した部分での柱間寸法は、桁行北側が北東隅柱穴（柱穴 11）より西へ 1.60m（柱穴８）、1.60m（柱穴４）、梁行東側が北東隅柱穴（柱穴 11）より南へ 1.60m（柱穴 10）を測り、等間である。柱穴掘方の平面形は隅丸方形（長軸約 0.65m×短軸約 0.45m）ないし不整円形（径 0.5m）を呈し、深さは 0.3m～0.4m を測る。柱穴掘方の埋土は地山層と類似した黄灰色系の砂質土で、径約 0.15m の柱痕跡を確認した。柱穴 10 より須恵器片が出土した。

柵列１　トレンチ外へ南北方向にのびており、全容は不明である。中世の溝２の東肩部で検出した。主軸はN－16°－Wを示す。２間（3.2m）以上で、柱穴１より南へ 1.55m（柱穴２）、1.60m（柱穴３）を測る。柱穴掘方の平面形は不整楕円形（径 0.5m）を呈し、深さは 0.3m～0.4m を測る。柱穴掘方の埋土は地山層と類似した黄灰色系の砂質土で、径約 0.15m の柱痕跡を確認した。柵列１と柵列２の柱筋は約 1.2m の間隔でほぼ平行して延びる。

柵列２　トレンチ外へ南北方向にのびており、全容は不明である。主軸はN－16°－Wを示す。現状では２間（3.2m）以上で、柱穴５より南へ 1.55m(柱穴６)、1.60m（柱穴７）を測る。柱穴掘方の平面形は不整円形（径 0.4m）を呈し、深さは 0.3m～0.4m を測る。柱穴掘方の埋土は地山層と類似した黄灰色系の砂質土で、径約 0.15m の柱痕跡を確認した。柱穴７より須恵器、土師器の細片が出土した。

7トレンチ（図7・10）

層序　近現代に耕作で形成された土層（1層・現耕作土～2層・明黄褐色系の土層）を掘削後、3層（明黄褐色土）上面（T.P.+35.25m）で中・近世の溝と小溝群、4層（地山・明黄褐色土層）上面（T.P.+35.15 m）で奈良時代の掘立柱建物を検出した。

遺構

第1遺構面

小溝群　幅約 0.2m、深さ約5cm の畝間の溝と推定される。溝は北東－南西の方向が5条と、それにほぼ直交する4条を検出した。

中世溝　トレンチの東端部に位置する。幅約 0.5m、深さは北端で約 15cm、南端で 25cm を測り、北東－南西方向に直線的に走る。断面形状は緩やかな皿形を呈し、溝底は局所的に凹凸が見られる。埋土は大きく2層に分かれ、下層には粘性の高い灰褐色系の土層が見られる。瓦器片・土師器片が出土した。

第2遺構面

掘立柱建物1　西側がトレンチ外にあたるため、全体の規模は不明である。梁行・桁行の確定は不可能だが、検出長の長い東側柱筋から求められる主軸は南北を示す。東側柱列2間（3.0m）以上×南側柱列1間（1.5m）以上を有する。検出した部分での柱間寸法は、桁行東側が南東隅柱穴（柱穴 16）より北へ 1.55m（柱穴 15）、1.45m(柱穴 13)、梁行南側が西へ 1.5m（柱穴7）を測る。柱穴掘方は隅丸方形（長軸約 0.6m×短軸約 0.4m）ないし不整円形（径約 0.5m）を呈し、深さは 0.3m～0.4m を測る。埋土は黄灰色系の砂質土で、約 0.2m の柱痕跡を確認した。

掘立柱建物2　東側が落込み1、さらに東・南側がトレンチ外にあたるため、全体の規模は不明である。梁行・桁行の確定は不可能だが、検出長の長い西側柱筋から求められる主軸は南北を示す。西側柱穴列は2間（3.5m）以上、北側柱列は1間（推定 1.5m）以上の規模を有する。西側柱穴列の柱間寸法は柱穴6より南へ 1.75m（柱穴5）、1.75m（柱穴2）を測り等間である。柱穴掘方の平面形は不整円形（径約 0.5m）を呈し、深さは 0.3m～0.4m を測る。埋土は黄灰色系の砂質土で、径約 0.15m の柱痕跡を確認した。柱穴5より須恵器片が出土した。

7．森遺跡 2014－1次調査（図 11～13、図版5、表4）

(1) 調査地の概要

森遺跡は、交野山から西へ延びた尾根裾と扇状地を中心にして立地した生産・集落遺跡である。1956 年の町道建設に伴う発掘調査以来、調査が積み重ねられ、弥生時代後期から中・近世に至るまでの遺構が検出され、遺物が出土している。また古墳時代中・後期には鍛冶関連の遺構・遺物を確認している。調査地は遺跡範囲の北西部に位置し、現況は水田である。試掘トレンチを北西－南東方向に3箇所設定した。現地標高は T.P.+29.50m を測る。

(2) 調査結果

層序　調査地北半部に設定した1・2トレンチでは、現地表面下約 0.3m で第1遺構面、現地表面下約 0.5m で第2遺構面を確認した。第2遺構面の基盤層である4層は硬く締まる砂・シルト層。一方、調査地南半部の3トレンチでは第1・第2遺構面は検出されず、現代耕作土層・

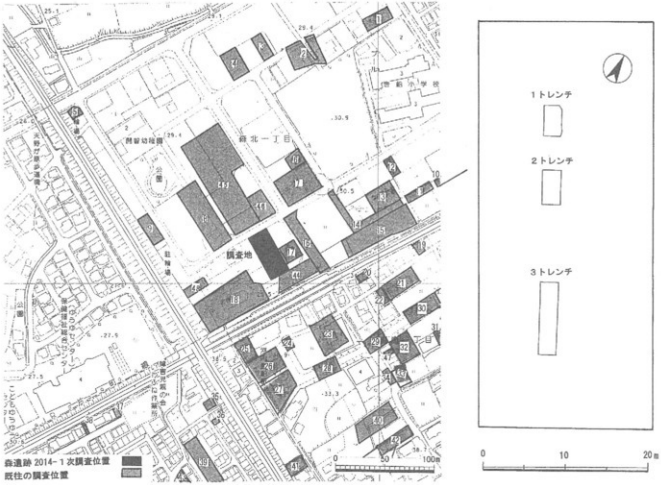


図 11　森遺跡 2014－1調査 位置図・トレンチ位置図

表 4　森遺跡主要調査地一覧

番号	調査次数	報告書	番号	調査次数	報告書
1	1996-3 次	森遺跡Ⅴ	25	2007-4 次	平成 19 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
2	1996-3 次	森遺跡Ⅴ	26	1989-3 次	森遺跡Ⅱ
3	2010-1 次	平成 22 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	27	1990-4 次	森遺跡Ⅲ
4	2008-3 次	平成 20 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	28	1988-2 次	森遺跡Ⅰ
5	2009-7 次	平成 21 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	29	1988-2 次	森遺跡Ⅰ
6	2010-5 次	平成 22 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	30	1990-4 次	森遺跡Ⅲ
7	1999-2 次	平成 11 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	31	1990-4 次	森遺跡Ⅲ
8	2000-5 次	平成 12 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	32	1992-8 次	平成 4 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
9	2001-3・4 次	平成 13 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	33	2003-1 次	平成 15 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
10	1996-4 次	森遺跡Ⅵ	34	1991	森遺跡Ⅳ
11	1997-5 次	森遺跡Ⅶ	35	2010-7 次	平成 22 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
12	2004-1 次	平成 16 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	36	1996-2 次	平成 8 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
13	2001-8 次	森遺跡Ⅸ	37	2009-3 次	平成 21 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
14	1996-4 次	森遺跡Ⅵ	38	2007-5 次	平成 19 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
15	2000-1 次	森遺跡Ⅷ	39	2003-5 次	平成 15 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
16	1995-2 次	森遺跡Ⅴ	40	1992-7 次	森遺跡Ⅴ
17	1999-7 次	森遺跡Ⅶ	41	1992-4 次	平成 4 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
18	1995-2 次	森遺跡Ⅴ	42	1993-6 次	平成 5 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
19	2001-10 次	平成 13 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	43	1993-10 次	平成 5 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
20	1996-8 次	平成 8 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	44	1992-6 次	森遺跡 1992-6 次調査報告書・交野都開発 1993－1 次調査報告書
21	1997-3 次	平成 9 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	45	2000-6 次	平成 12 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
22	2009-8 次	平成 21 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要	46	2000-8 次	平成 12 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
23	1995-1 次	森遺跡Ⅴ	47	1993-7 次	平成 5 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
24	—	森遺跡Ⅳ	48	2001-2 次	平成 13 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要

整地土層の直下に砂礫と砂、粘土が交互に堆積し（４層～14 層）、現地表面下約 1.0m（T.P.+28.50m）で 15 層（黒色粘土層）を確認した。15 層が第３遺構面の基盤層にあたり、その下層は灰色のシルト混じり砂礫の自然堆積となり、T.P.+28.00m まで砂礫の堆積を確認した。

なお、１トレンチで検出した黒色粘土層（18 層）と２トレンチの黒色粘土層（15 層）は３トレンチ第３遺構面の基盤層である黒色粘土（15 層）に対応する。

遺構

１トレンチ

第１遺構面　土坑５基と、北西隅で西側へ緩く傾斜する落ち込み１を検出した。それぞれの土

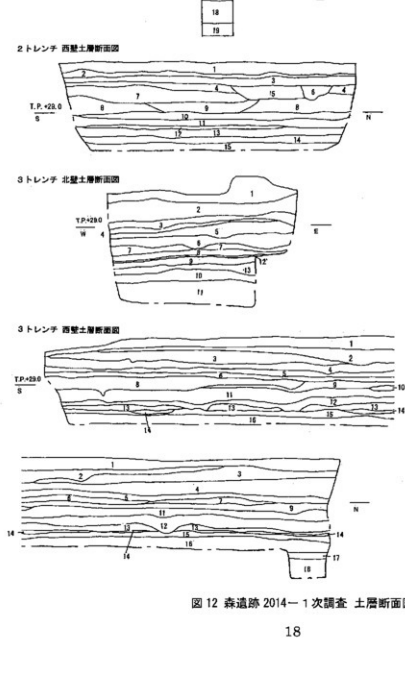


図 12 森遺跡 2014－１次調査 土層断面図

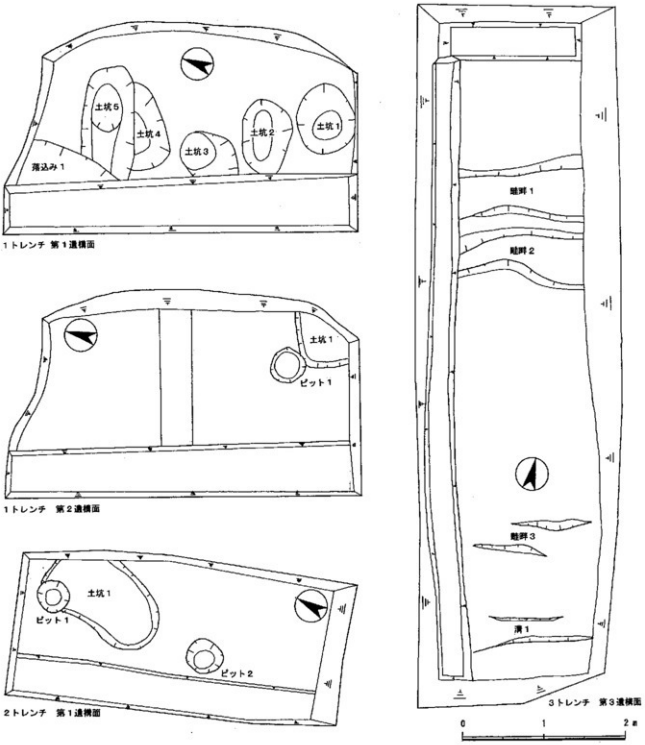


図 13 森遺跡 2014－1 次調査 平面図

坑からは須恵器と土師器の細片が出土している。

第２遺構面　南東隅でピット１基と土坑１基を検出した。遺物は出土しなかった。

２トレンチ

第１遺構面　ピット２基と土坑１基を検出した。土坑１より白磁椀・瓦器椀・土師器皿・須恵器の高杯脚部片などが出土した（図 14-33～36）。１トレンチの第２遺構面にあたる８層上面

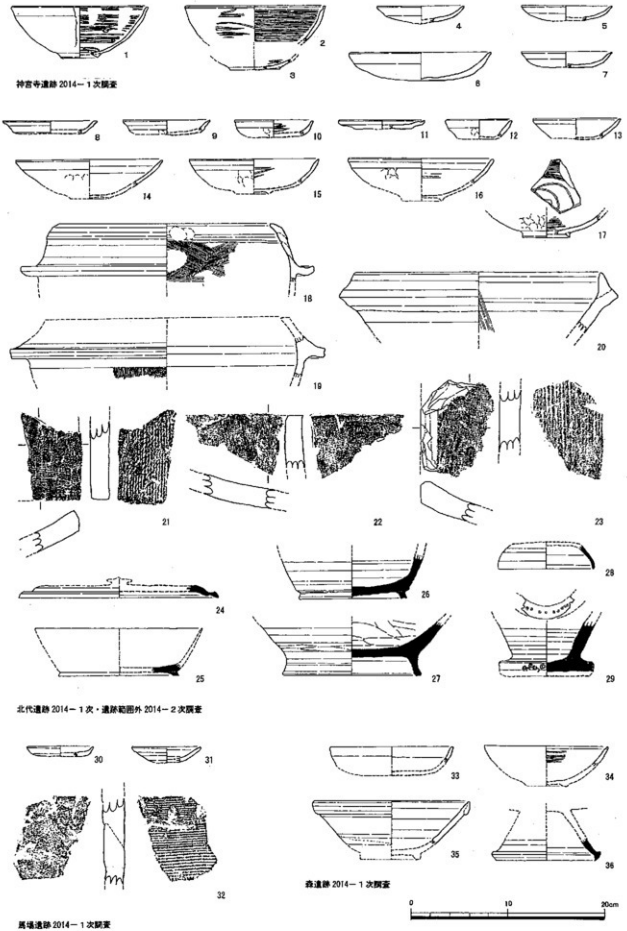

神宮寺遺跡 2014－1次調査
北代遺跡 2014－1次・遺跡範囲外 2014－2次調査
馬場遺跡 2014－1次調査
森遺跡 2014－1次調査
0
10
20cm

図 14　出土遺物

では遺構は検出されなかった。T.P.+28.6m で第３遺構面の基盤層である第 15 層を確認した。

３トレンチ

第３遺構面　T.P.+28.6m で第３遺構面を検出した。第３遺構面（15 層・黒色粘土層上面）では北東から南西方向に延びる畦畔３条と溝１条を検出した。遺物は出土しなかった。調査地の南西部に位置する 95－2 次調査において T.P.+28.6m 付近で弥生時代の洪水堆積層が確認されており、第３遺構面検出の水田は、弥生時代もしくは古墳時代に遡る可能性が考えられる。

8　岩倉開元寺跡・交野山石切場跡 2014－１次分布調査（図 15～19、図版６～９）

(1) 分布調査の経緯と目的　交野山には山麓の神宮寺の集落から山頂へと続く山道に石仏が点在する。この道が「石仏の道」と呼ばれ、山岳寺院・岩倉開元寺跡への参道であったと考えられている。岩倉開元寺跡については、交野考古学会による踏査成果と昭和 31 年（1956 年）に実施した発掘調査成果がある。そして、その後も出土・採集瓦の再整理を通して、創建時期・再建時期等について検討がなされてきた(交野考古学会 1956 /1957a/1957b・吉田知史 2012）。

ところで、交野山は急傾斜地・急渓流が多く、近年の大雨による山腹崩壊・土石流などの土砂流失で、石造物群や斜面の平坦地に分布する岩倉開元寺僧坊跡の現状調査が求められている。さらに、西北尾根とその斜面で矢穴石群が発見されていることから、基礎資料の作成と交野山における石切場という生産遺跡を含めた岩倉開元寺の寺院活動を再検討するため、遺跡の分布調査に取り組むこととした。

なお、調査対象地に設定したのは、岩倉開元寺跡の遺跡範囲の南半部にあたり、瓦・土器類が散布する交野山南西斜面と、山頂から西北約 500m 降った矢穴石が分布する尾根（頂部標高 188.5m）の２箇所である（図 15)。

(2) 岩倉開元寺跡分布調査

調査範囲　交野考古学会の踏査で、山腹斜面の尾根上に 20 数箇所の平坦地を確認している。瓦が採集されており、僧坊跡と推定されている。その成果を踏まえて、分布調査は石仏の道の奥にある阿弥陀三尊磨崖石仏を約 200m 登った岩倉開元寺跡の「馬かけ場」（標高 231.9m）からＡ地点塔礎石検出地（標高 275m）へ続く谷筋を中心に、以下の３地点の範囲で実施した。

第１地点　「馬かけ場」とその北側谷筋（標高 200m～標高 230m）にあたる範囲である。

崩落して谷底に埋積したマサ土に、瓦器椀・瓦質土器・丸瓦・平瓦・磚・土師器皿・石材・火熱を受けた瓦が散布していた。常滑甕（図 16、図版９-44)、隅瓦（図版９－49）などを採集した。丸瓦や隅瓦の残存状況が良好であり、近辺の「馬かけ場」北側の尾根の平坦地から谷筋に流れ込んだものと推定される。

第２地点　第１地点から東へ約 100m の離れた緩傾斜面（標高 240m 付近)、「仁王門」の北側にあたる範囲である。

谷を埋めたマサ土の堆積は厚く、瓦器椀・瓦器皿・瓦質土器・巴文軒丸瓦・平瓦・土師器皿・火熱を受けた瓦が散布していた。東播系鉢(図 16、図版９-47)、鞴羽口（図版９－48)、雁振瓦（図版９-50）を採集した。

第３地点　Ａ地点塔礎石検出地の北西側谷筋（標高 280m～標高 260m）にあたる範囲である。マサ土の流失が激しく、谷斜面に厚く堆積し、部分的に崩落して高さ１m の崖になっている。

瓦質土器・瓦などが散布し、谷を埋めた巨石にCタイプの矢穴列痕が認められた。瓦器椀(図16、図版9-37・39)、黒色土器B類椀（図16、図版9-38)、土師器皿（図16、図版9-40・41)、土師器土釜(図16-42)、瓦質土器(図16、図版9-43)、常滑焼（図16-45・46）などを採集した。

谷奥近くの谷底で石積みを確認した。石積みは上部が流失して大きく崩壊し、全容は不明であるが、谷筋に直交して積まれたものである。現状では2～3段分が残存しており、高さ約1mを測る。尾根平坦面に建立された僧坊とは別に、谷筋にも何らかの施設があったことが推定される。

また、石積みから崩れ落ちたものと推定される直方体の石材を確認した。この石材（図版6-7）は長さ40.2cm、幅32.2cm、厚さ28.3cmを測り、3面に古Aタイプの矢穴が穿たれている。ちなみに、古Aタイプの矢穴が穿たれた石造物に、交野市立教育文化会館に屋外展示されている岩倉開元寺跡礎石（長さ47.0cm、幅41.8cm、厚さ25.1cm）と板碑形町石が見られる。

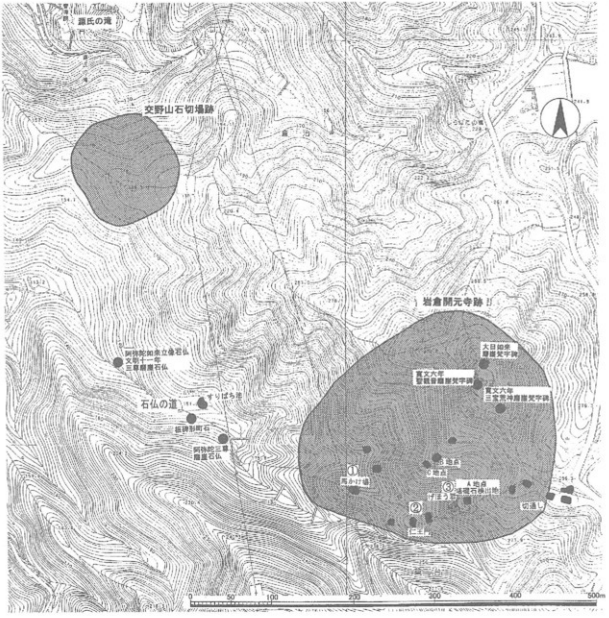


図15 交野山分布調査対象範囲（岩倉開元寺跡・交野山石切場跡・石仏の道）

(3)交野山石切場跡

交野山石切場跡の分布調査は、交野山西北尾根の頂部(標高 188.5m)一帯において、矢穴が穿たれた石材を確認したことに始まる。複数の矢穴石の存在から周辺が石切場として利用されていた可能性が考えられ、切り出された石材は交野山とその近辺だけでなく徳川期大坂城[1]への供給も推定されたことから、遺構及び石材の現況把握を目的に分布調査を実施することにした。

立地と概況　石切場跡は、交野山西北尾根にあり、倉治地区に分布する。尾根の山麓には安養寺跡、神宮寺遺跡、開元寺跡といった寺院を中心とする中世の遺跡が帯状に展開する。交野山山頂の南東斜面には岩倉開元寺跡の遺構が広がり、石切場跡の周辺は中世以降の遺跡の密度が極めて高くなることがわかる。その中でも、石切場跡は直線距離にしてこれらの遺跡のおおよそ中間地点にあたる（図1）。

石切場跡の遺構は、踏査によって交野山西北尾根の頂部(標高 188.5m)一帯ないし、その北側の谷筋まで展開していることが明らかになった。石材(矢穴石・自然石)の分布と採石遺構の分布域とそれを区画する谷地形の状況から石切場跡の範囲を決定した。さらに、想定される運搬路を含めると、2つの群に細分できる(図17)。

石切場跡Ⅰ群　交野山石切場跡のうち、Ⅰ群としたのは交野山西北尾根の頂部一帯とその北側斜面の標高 180m付近にある石材と作業空間と思われる平坦面である。尾根頂部の石材群のうち矢穴石は6点確認しており、いずれも半径約7mの範囲内に集中している状況であった。矢

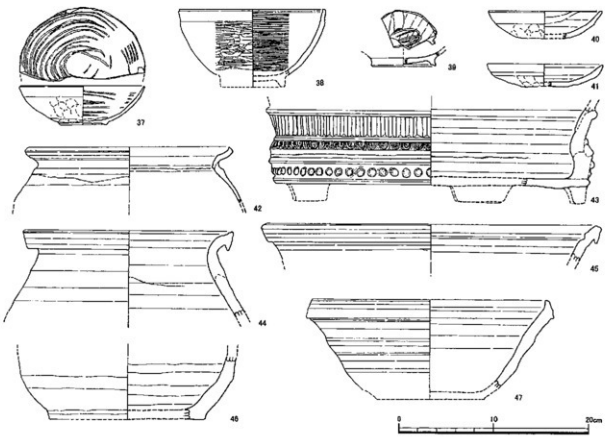


図16　岩倉開元寺分布調査採集遺物

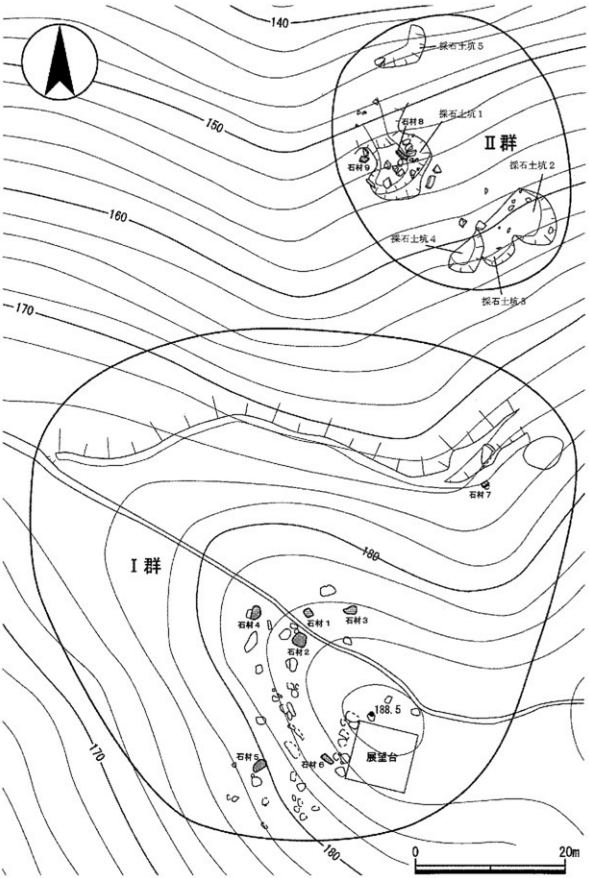


図 17 交野山石切場跡遺構全体図

穴石の周辺には自然石が数多く散布していたものの、クレーター状を呈する採石土坑のみならず、石材５より７m以上南方に至ると自然石すら認められなかった。このことから、尾根頂部一帯での採石活動は小規模な範囲で行われていたと考えられる。

また、確認した矢穴石は 1.0m～1.8m 程度の大きさであり、採石の過程でさらに小型化することを踏まえると大掛かりな運搬具は用いていなかった可能性が高い。つまり、石材の運搬には谷筋や河道の斜面を利用する必要はなく、尾根上の山道から運び出されたと考えるのが妥当であろう。ここに残存する矢穴石は、自然石に矢穴を穿った状態ないし分割した石材の一方である場合がほとんどであったため、目的材が得られれば採石活動として完結したと考えることができる。

北側斜面については、尾根頂部との間に谷を形成する急激なため落込みの存在により、空間的な断絶が認められる。しかし、石材７がある北側斜面の丁場からは等高線に沿って通路が延びており、それが尾根上の山道に結節することから運搬ルートを同じくする同一群として捉えることができる。ここには、作業空間と考えられる平坦面が２段あり、その上段に石材７が認められた。石材７は、３条の矢穴列痕を有する扁平な四角柱状を呈しており、両端の矢穴痕(A列・C列)がB列の矢穴列痕による分割で欠損している状態であった。つまり、石材７は主たる石材を採った端石であると考えられる。表面がかなり平滑であるため、一定程度の加工を付近で行ったと推察されるが、石材のチップやこっぱ石は認められなかった。また、周辺に点在する転石も精査したが、矢穴などの採石の痕跡は確認できなかった。

石切場跡Ⅱ群　交野山石切場跡のⅡ群は、Ⅰ群より約 15m北方の斜面上にあり、「源氏の滝」上流の谷と尾根が堀切状に凹んだ地点の南延長線上に位置する。ここでは、採石土坑を中心に遺構が展開していた。採石土坑は、採石の際に露頭する石材全体を露出するために周囲を掘り込んだ土坑状遺構であり、石材の分割・運搬後はクレーター状となって地表面で確認できる。交野山石切場跡Ⅱ群では、採石土坑と推定されるクレーター状の凹みを５箇所確認しており、うち１箇所に矢穴列痕を有する石材が土坑内に残存しているものが認められた。この明確に採石土坑と認識できる遺構を「採石土坑１」とし、以下、標高の高いところから２～５の遺構番号を付した。なお、採石土坑が確認できたのはこの一帯のみであった。

採石土坑１は、東西約 7.5m×南北約７m の不整円形を呈し、北側に向かって開口する。土坑内には自然石を中心に石材が集中しており、矢穴列痕を有する石材が土坑内(石材８)と北西肩部(石材９)に１石ずつ認められる。これらの石材は、形態から見て端石であると考えられ、対になる石材はなかった。

採石土坑２は採石土坑１とほぼ同規模である。採石土坑３と４はやや小型になるが、ほぼ同規模であり、切り合い関係になる。それぞれ自然石のみ認められ、前後関係は明らかであるが年代は不明である。

切り出された石材は、各採石土坑の開口方向から谷筋と河道を利用して北方に運搬したものと見られる。尾根に囲まれた閉鎖的な空間であることも考慮すると、「源氏の滝」がある東西方向の深い谷筋を下流に進むか、堀切状に凹む尾根に向かって直進する二つの運搬ルートが想定される。いずれにしても、交野山の北北西の山麓へ石材を運搬したものと考えられる。

石材と矢穴の様相　交野山石切場跡の分布調査の過程で明らかになった石材は９点であった。

その内訳は、Ⅰ群に７点、Ⅱ群には採石土坑１に２点である。ここでは、矢穴技法の型式と基礎的変遷を明らかにした森岡秀人・藤川祐作の研究成果に則って交野山石切場跡の石材と矢穴を概観する(森岡・藤川 2008、2013)。

交野山石切場跡の矢穴石は、長径 1.5m 前後の大きさで一定のまとまりを持つ。岩質は花崗岩であり、露頭する転石に矢穴を穿って採石する手法を取り、Ⅱ群ではクレーター状に掘り込んで石材を露出させていた状況も明らかになってきた。石丁場の規模や残石の大きさから、城郭石垣に用いるような石材を大量に切り出す許容量は無かったと考えられるため、現状では、石造物などに加工されて交野市域ないし周辺地域で消費されたとするのが妥当であろう。ほとんどの矢穴石は、割り損じたことによって石丁場に残されたものであり、未成品や剥片・こっぱ石などは確認できていないことから、加工を行う作業空間は異なる場所に設けられた可能性が高い。石材７は３面に矢穴痕が認められ、立方柱状に石材を切り出した状況がうかがえるため、交野山石切場跡では原石までを切り出したものと考えたい。

矢穴は、矢穴を形成する各辺をコンペックスによる簡易計測を行い[2](図 18)、それらの計測地を矢穴列ごとに平均値化した数値と縦断面形態を踏まえて分類したところ、およそ３タイプから成ることが明らかになった(表５、図 19)。

石材２・３・４・６に穿たれた矢穴は、森岡・藤川編年における古Ａタイプに属する。矢穴底が隅丸となり、法量のバラつきも大きい。また、矢穴列の中軸が直線的にならずに波打っており、平面形態もいびつである。法量には矢穴口長辺に３cm 程度の幅が認められるものの深さが８cm 前後でまとまる傾向が確認できる。なお、古Ａタイプの矢穴は 15 世紀末を上限に 16 世紀代を下限とする年代観が与えられている。石材７・８・９に穿たれた矢穴は、Ａタイプに属する。矢穴底の入念な調整によって縦断面形態が逆台形ないし方形を呈し、矢穴列一条中に法量や形態に一定の統一感が出現する。矢穴の法量は、矢穴口長辺にはやや幅が認められたが、深さ７cm 前後に収まる状況が読み取ることができる。石材２などで確認した古Ａタイプの矢穴とは一回りほど小さいことが明らかになった。Ａタイプの矢穴は 17 世紀初頭に出現し、17 世紀前半には広く普及することが明らかになっている。石材１・５に穿たれた矢穴は、Ｃタイプに属する。それぞれ法量はバラバラであるが、先に見た石材の矢穴に比べて小型になる点で共通しており、矢穴底の調整はやや曲線状を呈するが逆台形ないし箱型の形態となる。Ｃタイプの矢穴は近世後期以降に出現する豆矢や飛矢に対応する矢穴であり、石材１と５のＣタイプ矢穴においても同様のことが言えよう。

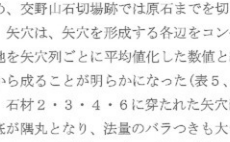


図 18　矢穴模式図

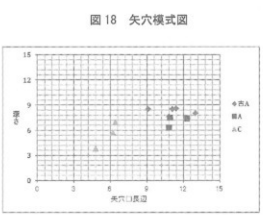


図 19　矢穴法量（矢穴口長辺―深さ）の分布図

つまり、石材１におけるＢ列の矢穴は豆矢、石材１のＡ列と石材５の矢穴では後者がやや長胴型となるが矢穴口長辺や矢穴底長辺の近似性から同一タイプと考えられ、飛矢に対応する矢穴であると位置づけられる。

Ｃタイプの矢穴は、近代の機械が導入される直前まで用いられているため明確な年代は与えることは難しいが相対的に新しい時期の矢穴であることは明らかである。

「交野山石切場跡」の分布調査では、遺構と石材の分布から石切場の範囲が明確に捉えられ、地形なども考慮して新規の遺跡として認知することができた。

遺跡内には矢穴が穿たれた石材が９点認められ、立地や石材の運搬ルートの想定から石丁場を２つの群に区分することができる。この群は、矢穴の様相から若干の時期差があると考えているが、交野山北西の山麓に向かって運搬ルートが想定できる点は共通しているため、石丁場を時期によって移動させた可能性もある。全体的に見ると、交野山石切場跡では小規模な採石活動を長期間にわたって散発的に行ってきたといえ、当初想定していた大坂城再築普請に対する大量の石材供給は石材の大きさや矢穴石の密度を見ても不可能であると考えられる。このことから、本遺跡は石造物などに加工するための原石を採掘していた可能性が考えられ、製品を含めた広汎な調査が今後求められよう。地域における石材生産を巡っては、石材の運搬方法や流通、加工場所(作業場)、石工の動向など明らかにすべき多くの課題がある。今回、交野市で新たに石切場跡が発見され、周知の埋蔵文化財として登録されたことによってその端緒を得ることができた。石材を媒介にした新たな地域史の解明に向けて多視点での調査・研究を行う必要がある。

註

1)元和・寛永期の大坂城再築普請では生駒山や飯盛山から石材を切り出しており、生駒山地の北端部に位置する交野山にも石切場を設けていた可能性があった。

2)図 18 の計測部位のうち、矢穴の間隔にあたる d 値については石工が石材の大きさや硬さなどを総合的に判断して矢穴を配列した結果生成されるため個体差が大きい。そのため、今回は計測を行っていない。

参考文献

交野考古学会　1956『石鏃　開元寺跡発掘報告』　第５号

交野考古学会　1957a『石鏃』第７号

交野考古学会　1957b『石鏃』第８号

吉田知史　2012『交野市の瓦』　交野市の文化財Ⅱ　交野市教育委員会・(財) 交野市文化財事業団

森岡秀人・坂田典彦　2005「石切技術をめぐる用語について」　『徳川期大坂城東六甲採石場Ⅳ　岩ヶ平石切丁場跡』 芦屋市教育委員会

森岡秀人・藤川祐作　2008「矢穴の型式学」　『古代学研究』第 180 号　古代学研究会

森岡秀人・藤川祐作　2013「矢穴調査報告」　『額安寺宝篋印塔修理報告書』　大和郡山市教育委員会

表5　矢穴寸法一覧

	石材No	矢穴No	矢穴口長辺(cm)	矢穴口短辺(cm)	深さ(cm)	矢穴底長辺(cm)	矢穴底短辺(cm)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)
Ⅰ群	1	A-1	5.8	—	5.8	3.9	—	1.12	0.91	0.53
		A-2	6	—	6	3.4	—			
		A-3	5.8	—	5.6	4.4	—			
		A-4	5.4	—	5.6	3.9	—			
		A-5	5.9	—	5.5	3.2	—			
		A-6	7	—	6	4.6	—			
		A-7	7.2	—	5.6	4.8	—			
		平均	6.2	—	5.7	4	—			
		B-1	4.8	—	3.3	3	—			
		B-2	—	—	4.3	2.8	—			
		平均	4.8	—	3.8	2.9	—			
	2	1	12.6	6	6.8	11.1	4.9	1.47	1.1	0.56
		2	12.2	5	5.4	10.9	4.1			
		3	15.6	5.5	10	11	3			
		4	14.1	4.9	7.4	9.9	2.3			
		5	12.2	5.2	6.9	9.1	3.2			
		6	11.5	5.5	8.1	8.7	2.2			
		7	12	6.2	7.8	9.1	2.9			
		8	13.9	7	9.9	11.3	2.6			
		9	12.5	6	10.5	8.8	2.1			
		平均	13	5.7	8	10	3			
	3	1	14.8	—	10.2	10.3	2.3	1.47	1.1	0.56
		2	10.5	—	7.4	9.4	2			
		3	10.2	—	6.3	8.5	2.8			
		4	—	—	9.3	9.7	2.6			
		5	—	—	—	—	—			
		6	12.4	—	8.3	8.3	—			
		7	10.3	—	10.2	6.8	—			
		8	10.2	—	8.8	8.2	2.7			
		平均	11.4	—	8.6	8.7	2.5			
	4	A-1	9.2	—	7.4	7.9	—	1.5	1.1	0.82
		A-2	8.6	—	9	8	—			
		A-3	9.5	—	9.2	9.5	—			
		平均	9.1	—	8.5	8.5				
		B-1	11.2	6.3	8.4	8.3	2.7			
		B-2	10.4	5.4	8.5	8.1	2.6			
		B-3	9.7	4.6	8.9	7.5	2			
		B-4	10.4	6.4	9.4	6.3	1.5			
		B-5	12.1	6	8.9	8	2.2			
		B-6	11.3	5.1	8.3	8.7	2.3			
		B-7	11	5.2	7.5	8.1	2.3			
		B-8	12.3	4.9	7.8	8.7	1.9			
		平均	11.1	5.5	8.5	8	2.2			
	5	1	6.6	—	7.2	4	1.8	1.81	1.01	0.79
		2	6.2	—	6.5	3.4	—			
		平均	6.4	—	6.9	3.7	1.8			
	6	1	8.5	—	8.9	6.5	—	1.55	0.94	0.9
		2	10.5	—	7.5	7.8	—			
		3	12.5	—	7.5	8	—			
		4	11.1	—	8	7.2	—			
		5	10.8	—	6	8.3	—			
		6	9.9	—	7.4	7.5	—			
		7	11.2	—	7.9	8.9	—			
		8	11.4	—	7.3	10	—			
		9	11.2	—	8	8.8	—			
		平均	10.8	—	7.6	8.1	—			
	7	A-1	—	—	—	—	—	—	0.8	0.63+
		B-1	10.6	—	6.8	8.5	—			
		B-2	10.3	—	5.3	7.6	—			
		B-3	12.1	—	6.5	8.4	—			
		B-4	10.1	—	6.6	7.4	—			
		平均	10.8	—	6.3	8	—			
		C-1	—	—	4.7	—	2.3			
Ⅱ群	8	1	—	—	—	—	—	1.39	0.39	0.24
		2	14.7	—	8.8	10	—			
		3	12.1	—	8.9	7.4	—			
		4	10.2	—	6.1	7.1	—			
		5	13.2	—	7	9	—			
		6	11.9	—	7	7.9	—			
		7	11.6	—	6.5	9.8	—			
		平均	12.3	—	7.4	8.5	—			
	9	1	9.4	—	7.2	6.6	—	—	0.89	0.39
		2	11.2	—	7.4	7.8	—			
		3	12.1	—	7.9	7.8	—			
		平均	10.9	—	7.5	7.4	—			

表6　遺物観察表

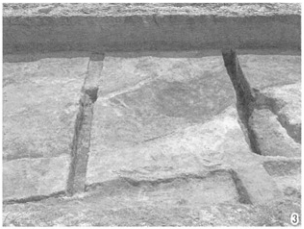
番号	種類・器種名	調査地	出土遺構	口径/器高/底径	色調	調整・特徴	備考
1	瓦器 椀	神宮寺遺跡2014－1	落込み2	14.5/(3.7)/-	外:N4/灰 内:N4/灰 断面:2.5GY6/1オリーブ灰	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ヘラミガキ	Ⅱ-3 図14
2	瓦器 椀	神宮寺遺跡2014－1	落込み2	14.5/(3.7)/-	外:N6/灰 内:N5/灰 断面:2.5Y7/2灰黄	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ヘラミガキ	Ⅱ-3 図14
3	瓦器 椀	神宮寺遺跡2014－1	溝1	4.9/(0.8)/-	外:10YR4/1褐灰 内:10YR4/1褐灰 断面:10YR7/2にぶい黄橙	外面:ユビオサエ 内面:ヘラミガキ	Ⅱ-3 図14
4	土師器 皿	神宮寺遺跡2014－1	落込み2	9.2/(1.8)	外:7.5YR6/6橙 内:7.5YR7/6橙 断面:5YR6/6橙	外面:ヨコナデ・ユビオサエ　内面:ナデ	図14
5	土師器 皿	神宮寺遺跡2014－1	落込み2	9.3/(1.5)	外5YR6/6明赤褐 内5YR6/6橙 断面5YR6/6橙	外面:ヨコナデ・ユビオサエ 内面:ナデ	図14
6	土師器 皿	神宮寺遺跡2014－1	落込み2	14.6/3.0	外:10YR7/3にぶい黄橙 内:10YR7/4にぶい黄橙 断面:10YR8/2灰白・10YR6/1褐灰	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ユビオサエ後ナデ	図14
7	土師器 皿	神宮寺遺跡2014－1	落込み2	9.3/(1.5)	外:10YR8/3浅黄橙 内:7.5YR7/4にぶい黄橙 断面:7.5YR6/4にぶい橙	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ナデ	図14
8	土師器 皿	遺跡範囲外2014－2	3トレンチ 13層	9.6/(1.5)	外:N3/0暗灰 内:N3/0暗灰 断面:N7/0灰白	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ナデ	図14
9	土師器 皿	遺跡範囲外2014－2	3トレンチ 13層	9.2/(1.3)	外:2.5Y5/2暗灰黄 内:2.5Y5/2暗灰黄 断面:2.5Y6/2灰黄	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ナデ	図14
10	瓦器 皿	遺跡範囲外2014－2	1トレンチ 27層	8.0/(1.5)	外N3/暗灰 内N4/灰 断面2.5Y7/1灰白	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ヘラミガキ	図14
11	土師器 皿	北代遺跡2014－1	8トレンチ 6層	9.2/1.0	外:10YR8/3浅黄橙 内:10YR8/3浅黄橙 断面:10YR7/4にぶい黄橙	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ナデ 口縁端部　「て」字状	図14
12	土師器 皿	遺跡範囲外2014－2	1トレンチ 29層	7.0/(2.0)	外:10R5/6赤 内:10R5/6赤 断面:10R5/6赤	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ナデ	図14
13	土師器 皿	北代遺跡2014－1	9トレンチ 4層	9.2/(2.0)	外:10YR7/1灰白 内:10YR7/1灰白 断面:10YR7/1灰白・10YR2/1黒	外面:ナデ 内面:ナデ	図14
14	瓦器 椀	遺跡範囲外2014－2	3トレンチ 13層	15.0/(2.7)/-	外:10YR8/1灰白 内:2.5YR6/1灰白 断面:10YR6/2灰黄橙	外面:ナデ・磨滅ユビオサエか 内面:ナデ	Ⅳ-1 図14
15	瓦器 椀	遺跡範囲外2014－2	7トレンチ 溝1	13.5/(2.6)/-	外:10YR3/0黒 内:N4/灰 断面:10YR8/1灰白	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ナデ後ミガキ	Ⅲ-3 図14
16	瓦器 椀	遺跡範囲外2014－2	9トレンチ4 層	13.5/(2.6)/-	外:5Y2/1黒 内:N3/0暗灰 断面:N7/0灰白	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ナデ・ヘラミガキ	Ⅲ-3 図14
17	瓦器 椀	遺跡範囲外2014－2	5トレンチ 14層	-/(2.1)/4.8	外:N3/0暗灰 内:N3/0暗灰 断面:N8/0灰白	内面:ヘラミガキ・暗文 外面:ユビオサエ 見込み暗文　らせん状	Ⅱ-3 図14
18	土師質 羽釜	北代遺跡2014－1	4トレンチ 溝2	22.0/(5.8)	外:10YR7/2にぶい黄橙 内:10YR6/2灰白 断面:10YR6/2灰白	外面:ナデ 内面:ハケメ・ユビオサエ	図14
19	土師質 羽釜	遺跡範囲外2014－2	6トレンチ 13層	最大径32.5	外:10YR7/2にぶい黄橙 内:10YR5/2灰黄褐 断面:10YR6/6赤橙	外面:ナデ 内面:ハケメ	図14
20	備前焼 鉢	北代遺跡2014－1	4トレンチ 溝2	25.0/(5.2)/-	外:10YR7/1灰白～10R5/4にぶい赤褐、2.5YR5/3にぶい赤褐 内:10YR5/2灰黄褐 断面:10YR6/6赤橙	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ後カキメ すり目あり	V期 図14
21	平瓦	遺跡範囲外2014－2	5トレンチ 14層	(8.6)/(5.6)/2.0	外:5B4/1暗青 内:5B4/1暗青 断面:N4/0灰	凹面:布目痕 凸面:縄叩き痕	図14
22	平瓦	北代遺跡2014－1	4トレンチ 溝2	(5.8)/(8.7)/1.8	外:N5/0灰 内:N5/0灰 断面:N6/灰～N7/0灰白	凹面:ケズリ 凸面:ナデ	図14
23	平瓦	遺跡範囲外2014－2	8トレンチ 16層	(9.1)/(7.0)/2.1	外:10YR8/1灰白～10YR2/1黒 内:10YR8/1灰白～10YR2/1黒 断面:10YR8/1灰白	凹面:布目痕 凸面:縄叩き痕	図14
24	須恵器 杯蓋	遺跡範囲外2014－2	8トレンチ 15層	20.6/(1.3)	外:N7/0灰白 内:N7/0灰白 断面:N7/0灰白	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	8世紀 口縁端部 図14
25	須恵器 杯身	遺跡範囲外2014－2	12トレンチ 12層	-/(1.0)/12.5	外:N7/0灰白 内:N6/0灰白 断面:N6/0灰～5RP7/1明黄灰	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	8世紀 図14
26	須恵器 壺	遺跡範囲外2014－2	5トレンチ 15層	-/(4.4)/10.6	外:N7/0灰白 内:N6/0灰白 断面:N6/0灰～5RP7/1明黄灰	外面:回転ヘラケズリ後回転ナデ 内面:底部不定方向ナデ	8世紀 図14

番号	種類・器種名	調査地	出土遺構	口径/器高/底径	色調	調整・特徴	備考
27	須恵器 壺	遺跡範囲外2014－2	5トレンチ 15層	-/(5.5)/14.0	外:N8/0灰 内:N8/0灰 断面:N6/0灰	外面:回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後不定方向ナデ	8世紀 図14
28	須恵器 杯蓋	遺跡範囲外2014－2	8トレンチ 17層	9.8/(2.1)	外:N8/0灰 内:N6/0灰 断面:7.5R4/1暗赤灰	外面:回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面:回転ナデ	7世紀 図14
29	須恵器 横瓶	遺跡範囲外2014－2	1トレンチ 29層	-/(4.6)/-	外:N7/0灰白 内:N7/10灰白 断面:5Y7/1灰白	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 叩突文	7世紀 図14
30	土師器 坩	馬場遺跡2014－1	盛土	8.0/(2.0)	外:7.5YR7/4にぶい橙 内:7.5YR7/4にぶい橙 断面:7.5YR7/2明褐灰	外面:ヨコナデ 内面:ナデ	図14
31	土師器 坩	馬場遺跡2014－1	盛土	6.8/(2.0)	外:10YR7/3にぶい黄橙 内:10YR8/2灰白 断面:10YR7/4にぶい黄橙	外面:ヨコナデ 内面:ナデ	図14
32	円筒埴輪	馬場遺跡2014－1	盛土	—	外:7.5YR6/6橙 内:7.5YR6/6橙 断面:7.5YR7/6橙	外面:タテハケ後ヨコハケ	図14
33	土師器 皿	森遺跡2014－1	2トレンチ 土坑1	12.6/(22.0)	外:10YR8/1灰白 内:10YR8/2灰黄橙 断面:5YR5/8明赤褐	外面:ヨコナデ・ユビオサエ 内面:ナデ	図14
34	瓦器 椀	森遺跡2014－1	2トレンチ 土坑1	12.8/(1.8)/-	外:N4/0灰 内:N4/0灰 断面:10YR8/1灰白	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	Ⅱ-3 図14
35	白磁 椀	森遺跡2014－1	2トレンチ 土坑1	15.8/(4.5)/-	外:（釉薬）2.5Y7/2灰黄 （胎土）2.5Y7/1灰白 内:（釉薬）2.5Y7/2灰黄 （胎土）2.5Y7/1灰白 断面:2.5Y7/2灰黄	外面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ	Ⅳ 図14
36	須恵器 高杯	森遺跡2014－1	2トレンチ 土坑1	-/(4.6)/10.2	外:N7/0灰白 内:N6/0灰 断面:N6/0灰	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	5世紀 陶邑編部 図14
37	瓦器 椀	岩倉開元寺跡	第3地点	13/5.2/4.8	外:N4/0灰～5YR4/1灰白 内:N6/0灰～5YR4/1灰白 断面:N7/0灰白	外面:ナデ・ユビオサエ 内面:ヘラミガキ	Ⅳ－1～Ⅳ－2 図16
38	黒色土器 椀	岩倉開元寺跡	第3地点	15.4/(6.8)/-	外:10YR5/1褐灰～5YR5/1灰 内:2.5Y6/2灰黄～5Y4/1灰 断面:2.5YR6/6橙	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	11世紀 図16
39	瓦器 椀	岩倉開元寺跡	第3地点	-/(1.6)/6.8	外:N5/0灰 内:N5/0灰 断面:N7/0灰白	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ 見込み暗文 らせん状	Ⅱ-3 図16
40	土師器 皿	岩倉開元寺跡	第3地点	12.0/2.8	外面:7.5YR7/3にぶい橙 内:7.5YR7/3にぶい橙 断面:7.5YR7/3にぶい橙	外面:後円部ヨコナデ・ユビオサエ 内面:ナデ	図16
41	土師器 皿	岩倉開元寺跡	第3地点	12.0/2.4	外:7.5YR7/3にぶい橙 内:7.5YR7/3にぶい橙 断面:7.5YR7/4にぶい橙	外面:口縁部ヨコナデ・ユビオサエ 内面:ナデ	図16
42	土師器 土釜	岩倉開元寺跡	第3地点	21.0/5.9/-	外面:7.5YR8/2灰白 内:7.5YR6/3鈍黄橙 断面:N2/黒	外面:口縁～頸部ヨコナデ・ユビオサエ 内面:ヨコナデ 口縁～頸部にかけて煤付着	15世紀 図16
43	瓦質土器	岩倉開元寺跡	第3地点	-/-/ (33.5)	外面:N3/暗灰～2.5Y5/1黄灰 内:N4/灰～2.5Y7/2灰黄 断面:2.5YR4/1灰白	外面：連続スタンプ文 内面：ナデ 墨炉形土器	図16
44	常滑焼 甕	岩倉開元寺跡	第1地点	21.8/(8.5)/-	外面:2.5YR4/3にぶい赤褐 内面:2.5YR4/3にぶい赤褐 断面:10YR5/1褐灰	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ 口縁部に釉がかかる	Ⅶ（14世紀後半） 図16
45	常滑焼 壺	岩倉開元寺跡	第3地点	34.8/(3.8)/-	外:2.5YR4/3にぶい赤褐 内:2.5YR4/3にぶい赤褐 断面:10YR5/1褐灰	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	Ⅸ（15世紀後半） 図16
46	常滑焼 壺	岩倉開元寺跡	第3地点	(6.2) /-/(16.2)	外:10YR4/3赤褐 内:7.5R4/1暗赤灰 断面:7.5YR6/3にぶい橙	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	図16
47	瓦器系 鉢	岩倉開元寺跡	第2地点	24.8/(9.3)/-	外:10YR4/6赤 内:5YR明赤褐 断面:5YR6/1褐灰	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ・ナデ 口縁部 沢付着	Ⅱ-2（12世紀末～13世紀初頭） 図16
48	鞴 羽口	岩倉開元寺跡	第2地点	(直径6.5)	表:5YR7/6橙～10R4/4赤褐 地:7.5YR6/6橙 付:5G2/1緑黒色（黒色ガラス質釉化）	鉄土に鞴長じる	図版9
49	瓦	岩倉開元寺跡	第1地点	（残存幅19）/（残存長23.8）/（残存厚4）3.1	断面:10YR6/6明黄褐～7.5Y4/1灰 凸面:7.5Y4/1灰、一部N3/暗灰、7.5YR6/8橙	凸面:ナデ・ヘラケズリ 凹面:ヘラケズリ・ナデ・布目圧痕 半截菊花瓦紋文、釘穴あり	15世紀 図版9
50	瓦器瓦	岩倉開元寺跡	第2地点	（残存長20）/（残存幅16.5）	外:2.5YY7/2灰黄、一部7.5Y5/1灰 内:2.5YR7/2灰黄 断面:2.5Y6/2灰黄	凸面:不定方向ナデ 凹面:布目圧痕・ケズリ・ナデ 「八」字状のヘラ描き	15世紀 図版9

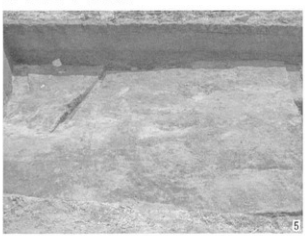
＊瓦器椀の編年は　6．文明期「豊臣中世の土器・陶器類」中世土器研究会編
＊白磁椀の編年は　9．中世前期　（4）段階「豊臣中世の土器・陶器類」中世土器研究会編
＊白磁椀の編年は　11．貿易陶磁　（3）中世前期の貿易陶器「豊臣中世の土器・陶器類」中世土器研究会編
＊常滑焼の編年は　9．中世陶器　（2）陶器・甕「豊臣中世の土器・陶器類」中世土器研究会編

図　　版

図版1　神宮寺遺跡（2014-1次調査）

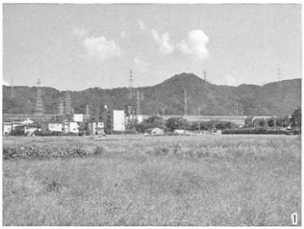


1. 1トレンチ 全景(南から)
2. 1トレンチ 北壁断面
3. 1トレンチ 溝1(西から)
4. 1トレンチ 溝1断面(南から)



5. 1トレンチ 落ち込み2(西から)
6. 1トレンチ 落ち込み2部分(西から)
7. 2トレンチ 全景(南から)
8. 2トレンチ 北壁断面

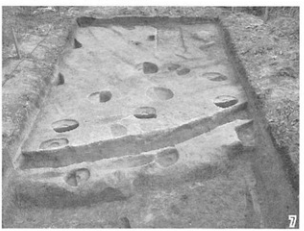
図版２　遺跡範囲外（倉治８丁目２０１４-２次調査）・北代遺跡（２０１４-１次調査）



1. 調査対象地から交野山を望む
2. １トレンチ　足跡面

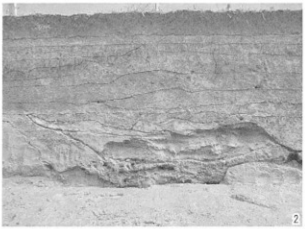
3. １トレンチ　北壁断面
4. ２トレンチ　全景（北から）

5. ３トレンチ　全景（南から）
6. ３トレンチ　東壁断面



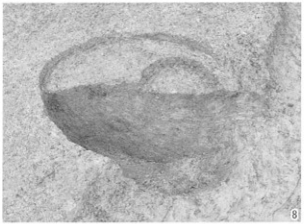
7. ４トレンチ　全景（西から）
8. ４トレンチ　全景（北から）

図版３　遺跡範囲外（倉治８丁目２０１４-２次調査）・北代遺跡（２０１４-１次調査）



1. ５トレンチ　全景（南から）
2. ５トレンチ　東壁断面

3. ６トレンチ　全景（南から）
4. ６トレンチ　北壁断面

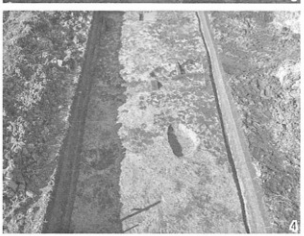


5. ７トレンチから北方６・５トレンチを望む
6. ７トレンチ　第１遺構面全景（南から）

7. ７トレンチ　第２遺構面（南から）
8. ７トレンチ　柱穴３断面

図版4　遺跡範囲外（倉治8丁目2014-2次調査）・北代遺跡（2014-1次調査）

1. 8トレンチ　全景（南から）
2. 8トレンチ　南壁断面・東壁断面

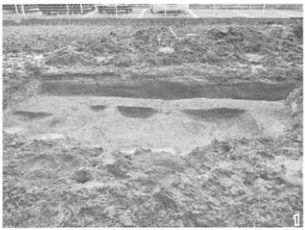


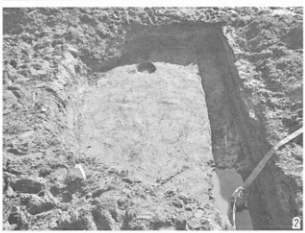
3. 9トレンチ　全景（南から）
4. 10トレンチ　全景（南から）

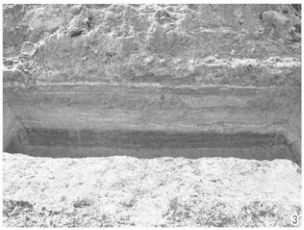
5. 10トレンチ　溝・土坑（南から）
6. 11トレンチ　西壁断面

7. 12トレンチ　全景（北から）
8. 12トレンチ　東壁断面

図版５　森遺跡（２０１４-１次調査）







1. １トレンチ　第１面全景（東から）
2. １トレンチ　第２面全景（北から）
3. ２トレンチ　西壁断面
4. ２トレンチ　第１面全景（北から）

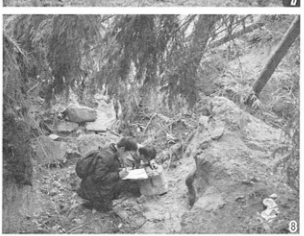
5. ３トレンチ　西壁断面
6. ３トレンチ　北半部第３面（西から）
7. ３トレンチ　第３面全景（北から）
8. ３トレンチ　第３面全景（南から）

図版6　岩倉開元寺跡分布調査（2014-1次調査）

1. 第1地点（西から）
2. 第2地点（東から）

3. 第3地点（西から）
4. 第3地点　南斜面

5. 第3地点　東斜面
6. 第3地点　石積み

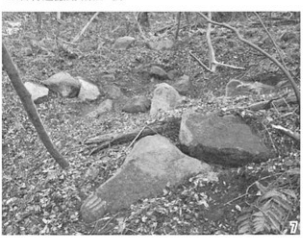


7. 石材（矢穴痕）
8. 作業風景（石材実測）

図版7　交野山石切場跡分布調査（2014-1次調査）

1. 全景（南西から）
2. 全景（西から）

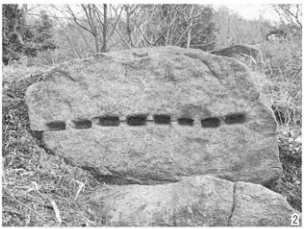
3. 石材運搬路（西から）
4. 石材運搬路（東から）



5. 作業風景（採石土坑確認作業）
6. 採石土坑（北から）

7. 採石土坑（南から）
8. 石材2（北から）

図版8　交野山石切場跡分布調査（2014-1次調査）



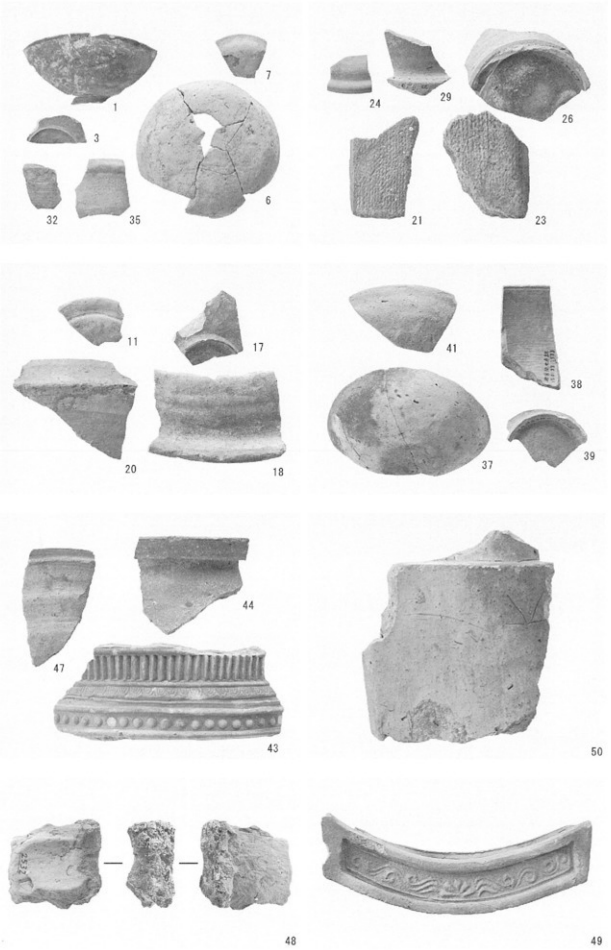
1. 石材3（西から）
2. 石材4（東から）

3. 石材5（西から）
4. 石材6

5. 石材7
6. 石材7（矢穴痕）

7. 石材8
8. 石材9

図版９　神宮寺遺跡・馬場遺跡・森遺跡・遺跡範囲外（倉治８丁目）・北代遺跡・岩倉開元寺跡出土遺物



報告書抄録

ふりがな	へいせい26ねんどかたのしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう
書名	平成26年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
副書名	
巻次	
シリーズ名	交野市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2014－Ⅱ
編著者名	吉田知史
編集機関	交野市教育委員会
所在地	〒576-0052　大阪府交野市私部１丁目１番１号　電話（072）892-0121
発行年月日	西暦 2015年3月31日

ふりがな	ふりがな	市町村		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
所収遺跡	所在地	コード	遺跡番号					
神宮寺遺跡（ふりがなじいせきいせき）	神宮寺1丁目325・326－1	27230	18	34°47′07″	135°42′05″	2014.4.23～5.16	2055.6㎡	分譲住宅
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
	散布地・集落跡	縄文・弥生～中世		ピット、溝		須恵器、土師器	なし	
ふりがな	ふりがな	市町村		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
所収遺跡	所在地	コード	遺跡番号					
上の山遺跡（ふりがなかみのやまいせき）	私市（きさいち）4丁目1052－2	27230	65	34°46′53″	135°40′20″	2014.5.2～6.9	10.6	分譲住宅
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
	集落・その他墓・生産跡	弥生～中世		溝		須恵器、土師器	なし	
ふりがな	ふりがな	市町村		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
所収遺跡	所在地	コード	遺跡番号					
帯懸遺跡（ふりがなおびがけいせき）	星田（ほしだ）4丁目3347番地1	27230	49	34°45′49″	135°39′52″	2014.6.16	3.0㎡	その他建物
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
	集落・その他墓・生産跡	弥生～中世		溝		須恵器、土師器	なし	
ふりがな	ふりがな	市町村		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
所収遺跡	所在地	コード	遺跡番号					
私部城（ふりがなきさいちじょう）	私部6丁目1710番地1	27230	8	34°47′12″	135°40′58″	2014.7.24	1.08㎡	分譲住宅
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
	城館跡	室町		なし		瓦片、土師器	なし	
ふりがな	ふりがな	市町村		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
所収遺跡	所在地	コード	遺跡番号					
遺跡範囲外・笠氏遺跡（ふりがなかさし）	倉治（くらじ）8丁目	27230		34°46′30″	135°41′25″	2014.8.21	3.6㎡	
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
				独立性建物、溝、ピット		須恵器、土師器	なし	
ふりがな	ふりがな	市町村		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
所収遺跡	所在地	コード	遺跡番号					
外郭堀内遺跡（ふりがなかくぼりないいせき）	藤が尾（ふじがお）5丁目142他	27230	51	34°45′55″	135°40′35″	2014.9.16～11.20	348㎡	その他開発
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
	散布地	中世		溝		なし	なし	
ふりがな	ふりがな	市町村		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
所収遺跡	所在地	コード	遺跡番号					
鳥居遺跡（ふりがとりいせき）	私市（きさいち）6丁目432	27230	40	34°46′00″	135°41′17″	2014.12.8～12.10	5.3㎡	宅地造成
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
	散布地	鎌倉～室町		土坑		土師器	なし	

ふりがな	ふりがな	市町村		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
所収遺跡	所在地	コード	遺跡番号					
森遺跡（もりいせき）	森北（もりきた）1丁目	27230	37	34°46′24″	135°41′07″	2014.12.8～12.10	5.2	宅地造成
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
	集落跡・生産遺跡	弥生～中世		土坑、畦畔		須恵器、瓦器	なし	
ふりがな	ふりがな	市町村		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
所収遺跡	所在地	コード	遺跡番号					
碧蒼園荒寺跡・交野城跡遺跡	公園（こうえん）地区	27230		34°47′12″	135°42′32″	2014.12.17～2015.1.5	31	その他建物
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
	寺院跡・生産遺跡	中世～近世		石丁場		瓦塔、常滑焼、瓦	なし	

平成26年度　交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発　行　日　2015年3月31日
編集・発行　交野市教育委員会
大阪府交野市私部1丁目1番1号
印　刷　所　株式会社　京阪工技社

（本報告書は、再生紙を利用しています。）